

高等教育開発をリードする人材が
集い、学び、成長する場。

全国の高等教育機関の教育の質向上のための
「教職員能力開発拠点」活動報告書

令和6年度

[令和7年3月]

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

はじめに

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、平成22年3月に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点（拠点名：教職員能力開発拠点）として認定され、第1期（平成22～26年度）、第2期（平成27～令和元年度）を通じて、高等教育の質を高める専門家の育成を目的としたFD／SD／IRプログラムの開発・提供に取り組みました。令和2年4月からは、第3期（令和2～6年度）に入り、個々の教職員に対する支援に留まらず、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発支援」を重視した取組を行ってまいりました。そして、令和6年7月には、これまでの取組の成果が認められ、令和7年4月から令和12年3月までの5年間の継続認定を受けました。この第4期は、これまでの経験や知見の蓄積により開発した「愛媛大学モデル」の研修による専門人材の養成や養成した専門人材のフォローアップ、ニーズに応じた研修の開発と実施、各種組織との協働を通じて、行動変容と組織開発につながる教職員能力開発の実現を目指してまいります。

さて、本年度（令和6年度）は第3期の最終年度として、これまでの取組を着実に進めていくとともに、広報やオンデマンドコンテンツの充実にも力を入れました。

重点事業に位置づけている「専門家・指導者の養成と支援」のための研修については、SDコーディネーター養成講座とカリキュラム・コーディネーター養成講座を大阪で開催し、2講座合計で55人の方に参加いただきました。研修受講者の満足度も95.7%と好評を得ることができました。

また、教職事務担当者研修（初級編）や教務事務担当者講習会（初級編）を開催し、全国の教務事務初任者の基礎知識取得を支援したほか、プレFDとして教授法入門を開講し、本学の指導補助者の養成、教育体制の充実に努めました。

さらに、高等教育機関向けに「教職員能力開発（FD・SD）に関する情報を発信する「ぼっちゃんメーリングリスト」の運用を開始し、500人を超える方にご登録いただきました。オンデマンドコンテンツに関しても、YouTube「愛媛大学FD・SDチャンネル」に58本の動画を公開するとともに、登録者数300人を達成し、多くの方に本拠点の取組をお届けする体制を築くことができました。

今後も新しい分野の研修や教材の開発を続けるとともに、時流に沿った事業を行うよう努力して参ります。引き続き本拠点が、全国の大学のカリキュラムなどの組織的な改善に貢献できますようお力添えを賜りたく、よろしくお願い申し上げます。

令和7年3月

国立大学法人愛媛大学長 仁科弘重

令和6年度「教職員能力開発拠点」活動報告書

目次

1	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について	
	(1) 組織概要	1
	(2) スタッフ紹介	3
2	教職員能力開発拠点について	
	(1) 教職員能力開発拠点の認定について	4
	(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について	4
	(3) 教職員能力開発拠点の事業計画について	5
3	令和6年度の事業報告	
	(1) 令和6年度事業の総括	7
	(2) 令和6年度活動実績	
	Ⅰ. 専門家・指導者養成と支援	9
	Ⅱ. FD／SDモデルの構築と普及	16
	Ⅲ. FD／SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働	41
4	第3期の事業報告	
	(1) 第3期5年間の総括（令和2～令和6年度）	47
参考資料		
①	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程	52
②	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会内規	54
③	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規	55
④	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェローの受入要項	57
⑤	共同利用運営委員会委員名簿及び共同利用推進会議委員名簿	58

1. 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室について

(1) 組織概要

ミッション

教育・学生支援機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査・研究等を行うとともに、その成果をもとに教育施策を企画し、本学の教育改革を推進すること。

教育企画室の業務（規程第3条及び第9条） ※P. 52～53参照

1. 全学的な教育企画、教育改革等に関すること。
2. 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
3. 教職員の能力開発の実施に関すること。
4. 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
5. 教職員能力開発拠点事業に関すること。
6. その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

※上記の成果を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

沿革

1993年度：旧教養部を改組して、大学教育研究実践センター（学内施設）が設置。

2001年度：大学教育総合センター（学内施設）となる。

2002年度：大学教育総合センター（省令施設）となる。

2004年度：教育・学生支援機構の設置に伴い、大学教育総合センターが廃止され、機構のセンターの1つとして、教育開発センター（共通教育部・教育開発部）が設置。

2005年度：スタディ・ヘルプ・デスク（SHD）を設置。

2006年度：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室を設置。
教育コーディネーター制度の導入。
愛媛大学教育改革促進事業（愛大教育改革GP）創設。

2008年度：「戦略的大学連携支援事業」に、「『四国地区大学教職員能力開発ネットワーク』による大学の教育力向上（代表校：愛媛大学）」が採択。
※四国地区の国立大学と近隣公私立大学等の連携により「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」を形成。

2010年度：「教職員能力開発拠点」（認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日）として、文部科学大臣から教育関係共同利用拠点として認定。
「FDカレンダー」の発行開始（2017年度まで継続）。

- 2012年度：「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」制定。
- 2014年度：愛媛大学独自のテニユア・トラック制度（現：テニユア教員育成制度）の導入。
- 2015年度：「教職員能力開発拠点」に再認定（認定の有効期間：平成27年4月1日～令和2年3月31日）。データから考える愛大授業改善発行開始。
- 2016年度：大学教育イノベーション日本（HEIJ）設立（同時に愛媛大学加盟、2019年から教育企画室教員が代表を務める）。
- 2017年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、2021年までに「看護教育実践シリーズ」全5冊（医学書院）を刊行。
- 2018年度：「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）」設立10周年。
- 2019年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、2021年までに「大学SD講座」全4冊（玉川大学出版部）を刊行。
- 2020年度：「教職員能力開発拠点」に再々認定（認定の有効期間：令和2年4月1日～令和7年3月31日）。
- 2021年度：「大学教職員のための48冊」を刊行。
- 2022年度：教育企画室教員がシリーズ編者として、「シリーズ大学教育の質保証」全3冊（医学書院）を刊行開始。
「愛大トランスファラブルスキル」の制定。
- 2023年度：「愛媛大学学生として期待される能力～愛大学生コンピテンシー～」改訂。
「愛媛大学FD・SDチャンネル」Youtube/X（Twitter）開設。
- 2024年度：愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー/愛媛大学認定研修講師を設置。
ぼっちゃんメーリングリストの運用開始。
教育企画室教員が編者として、「大学SD講座5 大学教育の国際化」（玉川大学出版部）を刊行。
「大学教職員のための56冊」を刊行。

(2) スタッフ紹介

教育企画室には、実践経験と研究業績を兼ね備えた、高等教育開発を専門とするスタッフが配属されている。

<スタッフ>

氏名	所属・職名	専門
中井 俊樹 - NAKAI Toshiki	学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教職員能力開発拠点代表者、教育企画室長 教授	高等教育論、人材育成論 (SDC資格取得者)
高木 佳代子 - TAKAGI Kayoko	教育企画室副室長、教育センター事務課長 (兼就職支援課長)	SD、メンタルヘルス (SDC資格取得者)
中山 晃 - NAKAYAMA Akira	教育企画室 教授	応用言語学、英語教育
カワモト・ジュリア・ミカ - KAWAMOTO Julia Mika	教育企画室 教授	応用言語学、教授言語、教員研修
清水 栄子 - SHIMIZU Eiko	教育企画室 准教授	高等教育論、学習支援 (SDC資格取得者)
上月 翔太 - KOZUKI Shota	教育企画室 講師	高等教育論、西洋古典文学、未来思考
真鍋 亮 - MANABE Ryo	教育企画室 特任助教	高等教育論、教育経済学
葛西 崇文 - KASAI Takafumi	教育企画室 特任助教	知覚心理学、SD (SDC資格取得者)

<事務局>

氏名	所属・職名
桐野 律子 -KIRINO Ritsuko	教育学生支援部長、教育企画課長

※教育学生支援部教育企画課において事務局業務を実施

<認定研修講師とプロジェクトフェロー>

今年度より、上記スタッフに加え、高い専門性のもと研修講師を担う学内教職員を「認定研修講師」、教職員能力開発に係る研修の企画、実施等に参画する学外有識者を「プロジェクトフェロー」として任命し、より幅広い教職員能力開発を展開できる体制を整えている。

2. 教職員能力開発拠点について

(1) 教職員能力開発拠点の認定について

教育関係共同利用拠点制度は、多様化する社会と学生のニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として創設された制度である。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、これまで行ってきた教職員能力開発のための研修講師の派遣や独自に開発したFD研修プログラムの提供及び「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から教育関係共同利用拠点に認定された。本拠点のこれまでの実績と、他大学にも開かれ、かつ他大学からの参加者の成長・習熟を担保できる拠点として発展が期待できる点が高く評価されたことにより、平成26年7月、令和元年8月にそれぞれ5年間の認定が継続された。そして、令和6年7月にも同じく5年間の認定継続が決定した。他大学や諸学協会等との連携により、これまで提供してきたプログラムの充実やFD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者の育成を図り、全国の高等教育機関の組織的な向上を目指していく。

◎拠点名：教職員能力開発拠点

◎認定施設の種類：大学の教職員の組織的な研修等の実施機関

◎認定の有効期間：平成22年4月1日～平成27年3月31日（5年間）

平成27年4月1日～令和2年3月31日（5年間）

令和2年4月1日～令和7年3月31日（5年間）

令和7年4月1日～令和12年3月31日（5年間）

◎代表者名：中井 俊樹

(愛媛大学学長特別補佐、教育・学生支援機構副機構長、教育企画室長 教授)

(2) 教職員能力開発拠点の実施体制について

教育企画室が所属する教育・学生支援機構は、愛媛大学の教育理念と目標に沿い、教育の充実及び学生の修学支援等の強化を図り、これらに伴う諸課題に対処し、迅速で効率的な意思決定を行うことを目的に設置された組織で、以下の業務を行っている。

(教育・学生支援機構の業務)

1. 学士課程及び大学院課程の教育の改善及び充実に関すること。
2. 共通教育の企画及び実施に関すること。
3. 学生の受入れ、修学支援、課外活動支援、就職支援等の企画及び実施に関すること。
4. その他、目的を達成するために必要な事項。

その中で、教育企画室は、教育・学生支援機構長（理事・副学長〔教育担当〕が兼任）の直属機関として、機構長の指示のもと、愛媛大学の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果を実際の教育活動に適用し、愛媛大学の教育改革を推進することを目的として設置

されている。また、教職員能力開発拠点の再認定を受け、これまで提供してきたプログラムの充実や重点事業の推進を図り、全国の高等教育機関等の利用に供している。

教職員能力開発拠点は、教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課と教職協働で教職員の能力開発や教育改革の取組を行っている。

また、教育企画室には、共同利用運営委員会及び共同利用推進会議を置いている。

共同利用運営委員会は、教職員能力開発拠点の運営に関する重要な事項を審議しており、教育企画室員等の学内関係者のほか、学外の学識経験者4名もメンバーになっている（P.54、58参照）。令和2年度以降の認定継続を受け、令和2年7月に同委員会において、「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」を策定した。

共同利用推進会議は、共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議しており、教職員能力開発拠点運営スタッフである教育企画課長や人事課長がメンバーに入っている。（P.55、58参照）

さらに、教職員能力開発拠点は、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）、日本高等教育開発協会（JAED）、大学教育イノベーション日本（HEIJ）や大学評価コンソーシアムなどの高等教育関係学協会、他の教育関係共同利用拠点等と各種プログラムで連携し、事業を行っている。

（3）教職員能力開発拠点の事業計画について

令和2年度以降の認定継続を受け、令和2年7月に「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」が共同利用運営委員会において策定された。この基本方針に基づき、毎年、事業計画が立てられている。

第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針

令和2年7月15日
共同利用運営委員会決定

1. 事業目的

本事業の目的は、全国の大学の教職員能力開発の質向上に寄与することにある。第3期（令和2年度～6年度）は、第1期～第2期（平成22年度～令和元年度）までの取組をさらに発展させ、研修プログラムの提供による個々の教職員の能力開発支援だけでなく、教育改善に関する専門家・指導者の養成や本拠点が開発したFD/SDモデルの提供などを通じ、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発（OD：Organizational Development）」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指す。

2. 事業内容

教職員能力開発拠点（以下「拠点」という。）は、教職員能力開発に関する以下の事業を行う。

- ① 専門家・指導者養成と支援
 - ✓ FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者の養成 等
- ② FD/SDモデルの構築と普及
 - ✓ 研修プログラムの開発・公開、情報発信、相談対応 等
- ③ 大学間連携ネットワークとの協働
 - ✓ 他拠点等との協働による研修会の実施 等

3. 実施体制

- ✓ 外部有識者が過半数の共同利用運営委員会を置き、開かれた運営を行う。
- ✓ 教育企画室（教員組織）と教育学生支援部教育企画課及び総務部人事課（事務組織）が連携・協働して事業を行う。

令和6年度教職員能力開発拠点事業計画

◇全体計画

教職員能力開発拠点（愛媛大学教育企画室）は、全国の教育関係共同利用拠点として、FD／SD／IR／カリキュラム開発の専門家・指導者の養成、本拠点が開発したFD／SDモデルの提供や個別相談も含めた長期的なサポート等、各組織の自立的な教育改善を支援するための以下の事業を行うほか、他拠点やコンソーシアム等との連携を強化し、大学間連携ネットワーク等への講師派遣・運営支援を積極的に行う。これらの取組を通して、当拠点第3期の5年間（令和2～6年度）で延べ250機関の組織開発（OD：Organizational Development）支援を行うことにより、全国の大学の教職員能力開発の質向上を牽引する。

◇事業内容

I 専門家・指導者養成と支援

令和6年度は、「SDコーディネーター養成講座」、「カリキュラム・コーディネーター養成講座評価編」、「大学教育国際化コーディネーター養成講座」を開催する。また、未経験者を含む教務・教職事務の経験の浅い職員を対象に基礎知識を学習する教務・教職関係の講座を開催する。その他新規研修についても実施を予定している。

II FD／SDモデルの構築と普及

本拠点が開発したFD／SDモデルを活用しつつ組織開発支援を行う。具体的な組織開発支援のあり方として、①研修講師派遣、②オンデマンドFD／SDコンテンツの発信、③FD／SDに対する個別相談対応、といったものが挙げられる。

①については、1機関あたり複数回の研修実施または1回の研修とその前後におけるコンサルティングを含むものに力点を置き、他大学に対する継続的な組織開発支援を図る。②については、YouTubeチャンネル等でオンデマンドのFD／SD教材を公開し、他大学がFD／SD研修や教職員の自学自習教材として活用することにより、他大学の自立的な組織開発を支援することを意図している。③については、他大学のニーズに対応する形で個別相談や訪問対応等を行う。その際、相談や訪問対応から研修やコンサルティングのニーズを掘り起こす等により、今後の発展的な組織開発支援の可能性及び本拠点の第4期事業のあり方も検討していく。

また、研修や動画の広報に活用するため、メーリングリストを開設する。さらに、令和5年度に実施したスタッフ・ディベロップメント・コーディネーター（SDC）取得者へのアンケート及びインタビューを元に、SDC認定の取組について教育学术新聞に寄稿することで、本拠点及び拠点SDCの広報を展開していく。

III FD／SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

他拠点やコンソーシアム等に対し、研修の共催や講師派遣、委員としての参画を中心とした連携を行う。また、「教職事務担当者講習会（初級編）」と「教務事務担当者講座（初級編）」は大学教務実践研究会と連携して実施する。さらに、教職員能力開発拠点所属教員が代表を務めている日本高等教育開発協会（JAED）等との活動を通じて、第4期事業に向けて、大学教育の開発を進める組織との連携をさらに推進していく。

3 令和6年度の事業報告

(1) 令和6年度事業の総括

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、令和元年8月に教育関係共同利用拠点として3度目の認定を受け、令和2年4月に第3期の事業をスタートさせた。第3期最終年度の今年度は、第3期の締めくくりとして、各種取組を着実に進めた。また、第4期に向けて拠点の機能強化・拡充、学内の協力体制の充実を図るため、高い専門性のもと研修講師を担う学内教職員を「認定研修講師」、教職員能力開発に係る研修の企画、実施等に参画する学外有識者を「プロジェクトフェロー」として任命した。以下、今年度の取組状況を総括する。

① FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援

今年度は、SDコーディネーター（SDC）養成講座とカリキュラム・コーディネーター養成講座の2講座を大阪で同時開催し、全国からあわせて55名の参加があった。SDCやカリキュラム・コーディネーターに求められる基礎的な知識等を学びつつ、SDの企画案やカリキュラムの課題解決案を作成しグループで共有するなど、実践的な手法も検討した。

SDC養成講座は隔年で開催しているが、第3期事業では初めて対面での開催となった。SDC資格取得者が講師となり研修を実施したことで、「モチベーションが上がった」「経験談に説得力があった」といった声がみられた。

カリキュラム・コーディネーター養成講座は、昨年度に引き続き2年連続での開催となったが、今回はカリキュラムの改善において特に重要となる「学習成果の評価」に焦点を当て、その具体的な方法や留意点を学習した。「他大学の学習成果の評価について多くの情報を得られた」「教員の参加も多く、教員目線での意見を聞くことができ新鮮だった」といった声もあり、カリキュラム構成を担当する教職員同士で意見交換を行う中で、新たな気づきを得られた様子であった。

② 研修プログラムの提供

教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できるよう、全15プログラムを提供し、学内外から329名（令和7年3月20日現在）の参加があり、事後に行ったアンケートにおいても高い満足度を得ることができた。

また、FD・SDに関するオンデマンド教材を開発し、昨年開設したYouTubeチャンネル（愛媛大学FD・SDチャンネル）に公開しており、チャンネル内でのコンテンツ数は75本（令和7年3月20日現在）となった。

③ 研修講師派遣

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、今年度は45機関に対し、54件の講師派遣を行った（令和7年3月20日現在）。また、対面やオンラインだけでなく、それらを組み合わせたハイブリット方式や当日の録画データを後日視聴して受講するオンデマンド方式等、受講者のニーズにあわせた方法で研修を実施した機関も多くみられた。それぞれの利点を活かしたプログラム構成を実施機関と相談の上、組織で必要とされる人材育成の取組等に、本拠点のノウハウを提供した。

④ 情報発信

学内外のIRに関する取組を掲載した「IR News Vol. 12」を作成し、愛媛大学の取組や研究成果を学内外に発信した。また、教育・学生支援機構が毎年刊行している「大学教育実践ジャーナル」については、高等教育の発展に資する研究論文や事例報告を掲載した第24号を発行した。

また、今年度から教職員能力開発（FD・SD）に関する情報を配信するためぼっちゃんメーリングリストの運用を開始した。メーリングリストに登録した会員は615名（令和7年3月20日現在）となり、メーリングリスト会員は、情報を受信するだけでなく自ら投稿することも可能で、これまでに119件（令和7年3月20日現在）の配信を行った。

⑤FD／SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

SDC養成講座とカリキュラム・コーディネーター養成講座は、近畿大学IR・教育支援センターおよび大学コンソーシアム大阪と共催し、協働で取り組んだ。その他、全国規模のネットワーク組織等に講師派遣を行うなど、大学教育の開発を進める組織等との連携を深めた。

【組織開発支援】

本拠点事業第3期は、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発（OD: Organizational Development）」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指すことを重点取組としている。今年度は、研修実施や講師派遣、コンサルティング等を通して、44機関への組織開発支援を実施した（令和7年3月20日現在）。

引き続き、それぞれの機関の実情や要望にあったプログラムによる研修やコンサルティングを実施するとともに、現状に即した新たなプログラムを開発し、全国の高等教育機関への支援を拡げていく。

(2) 令和6年度活動実績

I. 専門家・指導者養成と支援

各大学等において自立的にFD、SD及びIRを推進できる専門家・実践的指導者の養成は、特に高い波及効果が期待できるため、高等教育の質向上に大きく資することのできるニーズの高い事業の一つとなっている。本拠点では、第1～2期からFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成に重点的に取り組み、これに加えて第3期からは新たにカリキュラム開発の専門家・指導者養成についても取り組んでいる。

今年度は、SD/カリキュラム開発分野の2講座を近畿大学にて開催した。これらの講座では、知識や実践的なスキルを習得するだけでなく、自大学の課題に即したアクションプランを個別に構築しグループで共有することで、他大学の状況も参考に具体的な改善策を持ち帰ることができるプログラムとなっている。さらに受講者の行動変容や所属組織改善への取り組み等について、事後アンケートやフォローアップ等を通じた質的分析を行っている。

a. SDの実践的指導者の養成・支援

本拠点では、職員の能力開発に関する知識・技術を習得し、特定の認定基準を満たしたSDの実践的指導者のことを「SDコーディネーター(SDC)」と称しており、今年度は学外者1名を新たにSDCとして資格認定した。これまでのSDC資格認定者は43名にのぼり、それぞれが自校及び学外でのSD推進に貢献している。

SDC (スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター：SDの実践的指導者) とは

職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、以下4点を担うことのできるSD実践的指導者

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案

SDCの資格認定基準 (令和5年度から)

1. 高等教育機関のSDの推進に対する意欲と展望を有している。
2. 高等教育機関におけるSDプログラム開発・企画・評価の手法を修得している。
3. 本拠点が主催するSDC養成講座を修了している。もしくは、修了した者と同等の能力があると認められる。
4. 所属機関以外が主催する研修の複数回の講師経験がある。
5. 講師として効果的な研修を担当できる。

※スタッフ・ポートフォリオとは、SPOD (四国地区大学教職員能力開発ネットワーク) が開発した職員の業績記録の一形態であり、職員としての業績を具体的な裏付け (エビデンス) に基づき振り返ることにより、自らの成長をあらためて認識できるものをいう。

■ 8月8日（木）～9日（金）開催 SDコーディネーター（SDC）養成講座

本講座は、職員の能力開発の実践的指導者になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につけることを目的としている。今年度は、近畿大学IR・教育支援センター、大学コンソーシアム大阪との共催で近畿大学にて開催し、全国から19名（職員18名、教員1名）の参加があった。参加者ははじめに、キャリア開発や人材育成ビジョンについての知識・手法、研修プログラムの企画、運営、評価に関する基礎を学んだ。その後、実際にSDプログラムを開発するワークに取り組み、講師との個別面談でアドバイスを受け、ブラッシュアップを重ねた後にグループ内で発表を行い、参加者同士で共有した。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。 100%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・持ち込んだ研修企画に対して、改善や懸念点を指摘いただいたことはもちろん、応援の意見もたくさんいただけて、モチベーションが上がりました。
- ・講師陣の皆様もSDC養成講座を受講・修了され、さらに経験と研鑽を積まれて登壇されていてまさにSDCの手本となるような内容ですべてが参考になりました。

b. カリキュラム開発の専門家（カリキュラム・コーディネーター：CC）の養成・支援

大学の質保証に向けた取組が求められる中、カリキュラムマネジメントの重要性はますます高まっている。カリキュラムは、大学の教育理念や教育目的にそって大学教職員が主体的に編成すべきものであるが、一方、カリキュラムマネジメントは専門的知識を要する活動であるため、カリキュラムマネジメントを担う人材の育成が大きな課題となっている。本拠点では、第3期からの新規事業として、カリキュラム開発の専門家を養成することを目的に、「カリキュラム・コーディネーター養成講座」を開講している。

CC（カリキュラム・コーディネーター：カリキュラム開発の専門家）とは

大学の教育理念を実現するために、計画・実施・評価・改善のサイクルを通して、カリキュラムの課題を解決することができる専門家

■ 8月8日（木）～9日（金）開催

カリキュラム・コーディネーター養成講座－学習成果の評価の方法と体制－

近畿大学 I R・教育支援センター、大学コンソーシアム大阪との共催および日本高等教育開発協会の後援により、近畿大学にてSDC養成講座と同時開催した。昨年度に引き続いての開催となったが、今回は「学習成果の評価の方法と体制」をテーマにカリキュラムの編成や評価を担当している教職員を対象として募集を行った。その結果、全国から36名（教員16名、職員20名）が参加した。

講座では、1日目にカリキュラム評価の意義や方法、学習成果の評価の現状と課題について学び、2日目に個人でカリキュラムの課題解決案を作成しグループ内で発表と意見交換を行った。



【事後アンケート結果】

- ①研修は全体的に満足できるものだった。93.5%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）
- ②知識やスキルを身につけることができた。96.8%（そう思う＋どちらかと言えばそう思う）

【参加者からの声】

- ・ 新たな知見を得ることができただけでなく、これまでに得ていた知識についても、漠然としていたものが、はっきりとイメージすることができた。
- ・ 講師との面談の機会、グループワーク、最後の発表での意見交換等、自大学の事例に対して意見を頂ける機会が多かった点が大変良かった。
- ・ 類似業務に従事している教職員との情報交換を通じて、本学の取り組みの妥当性と改善の必要性を考えることができた。



SDコーディネーター (SDC)養成講座

先着20名

日程: 令和6年8月8日(木)～9日(金)

会場: 近畿大学東大阪キャンパス(対面開講)

対象: SDを担当した経験がある、または今後担当予定がある教職員

※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。

※2日間全プログラムに参加できる教職員の方に限ります。

SDコーディネーターとは「職員の能力開発に関する知識・技術を修得し、SDの実践的指導者として適切な能力を有すると認められる者」のことで、※認定基準、認定の流れは[こちら](#)をご参照ください。

お申し込み

★参加費: 4,000円

5月13日(月)正午 ～ 7月5日(金)正午

- ◆ グループワークのため、班分け名簿を作成します。名簿には、氏名・学校名・所属・職種・職名のみ記載します。
- ◆ 定員人数(20名)に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
- ◆ 多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みが多数の場合は、全体のお申し込み状況により受講を制限させていただくことがあります。
- ◆ 参加費の支払い方法について
研修終了後、申し込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら、期限までにお支払いください。
なお、お申し込み後にキャンセルされた場合も参加費は請求させていただきます。
- ◆ 研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。
- ◆ 全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



実施目的

職員の能力開発(SD)の実践的指導者(SDコーディネーター/SDC)になるため、その役割や求められる能力を理解し、実際のSD推進に活用できる具体的手法を身につける。

到達目標

1. 人材育成ビジョンの意義を理解したうえで、その構築手法を説明することができる
2. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる
3. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる
4. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる
5. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることのできる

講師

清水 栄子	(愛媛大学教育・学生支援機構)
高木 佳代子	(愛媛大学教育学生支援部)
竹中 喜一	(近畿大学IR・教育支援センター)
葛西 崇文	(大阪女学院大学事務局)
近藤 智彦	(愛知大学内部監査室)
佐藤 浩輔	(大阪体育大学庶務部)
宮原 秀明	(大阪学院大学事務局)



スケジュール

1日目

8:30	受付開始	
9:00	オープニング・オリエンテーション	【清水】
9:30	大学職員の能力開発を理解する	【竹中】
10:40	スタッフ・ポートフォリオとメンタリングを理解する	【高木】
11:40	休憩	
12:40	メンタリングを実践する	【佐藤】
14:00	研修プログラムを企画・運営する	【葛西】
15:10	研修プログラムを評価する	【宮原】
16:20	演習：事前課題の共有	【全講師】
	※ 事前課題で提出したSDの企画案について、問題点や講義を聞いて改善しようと思った点などを共有。	
	※ 翌日の個別相談の予約(希望者のみ)	
17:30	終了	

2日目

9:00	人材育成ビジョンの構築とSDの体系化を図る	【近藤】
10:10	演習：SDの企画案の作成と個別相談	【全講師】
	※ 個別面談：1人10分	
	※ 途中で昼休憩1時間	
14:00	演習：SDの企画案の共有	【全講師】
15:10	全体共有と振り返り	【清水】
15:55	クロージング	
16:00	終了	

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL:089-927-9154
mail: kiyoiu@stu.ehime-u.ac.jp

事前課題

- ① スタッフ・ポートフォリオの作成
当日までに作成し、ご自身で2部印刷して持参ください。
- ② ワークシートの作成
自大学で実施しているSDについて、新たに企画したいものや現状の改善を図りたいものを考えるワークシートを提出してください。
※ 受付完了後、様式をお送りします。
※ 当日、ワークシートの内容について3分程度で発表いただきます。
➢ 提出期限：令和6年7月31日(水)
➢ 提出先：愛媛大学
教育学生支援部教育企画課
kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp
- ③ 『大学SD講座4 大学職員の能力開発』の講読
※ 当日、「大学職員の能力開発を理解する」で第3章～第8章の内容をもとにした議論を行います。
※ 「研修プログラムを企画・運営する」「研修プログラムを評価する」は第9・10章と大きく関連します。
※ 書籍は当日までに各自でご準備ください。
対象書籍：竹中喜一・中井俊樹編著(2021)
『大学SD講座4 大学職員の能力開発』
(玉川大学出版部、2000円+税)

アクセス

近畿大学東大阪キャンパス
(大阪府東大阪市小若江3丁目4-1)

近鉄大阪線「長瀬」から徒歩10分

(近畿大学HP参照)

<https://www.kindai.ac.jp/access/>

主催：教職員能力開発拠点（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室）
共催：近畿大学IR・教育支援センター、大学コンソーシアム大阪

カリキュラム・コーディネーター養成講座 ー学習成果の評価の方法と体制ー

先着24名
※1機関2名まで

日程:令和6年8月8日(木)～9日(金)

会場:近畿大学東大阪キャンパス(対面開講)

対象:カリキュラムの編成や評価を担当している教職員

※民間企業等に勤務されている方の参加はお断りしております。

※2日間全プログラムに参加できる教職員の方に限ります。

お申し込み

★参加費:4,000円

5月13日(月)正午～7月5日(金)正午

- ◆グループワークのため、班分け名簿を作成します。名簿には、氏名・学校名・所属・職種・職名のみ記載します。
- ◆定員人数(24名)に到達次第、募集を締め切ります。お早めにお申し込みください。受付完了後、確認メールを送信します。いただいた情報は、本講座以外に使用することはありません。
- ◆多くの機関の方々にご参加いただくため、同一機関からのお申し込みは2名までとさせていただきます。
- ◆参加費の支払い方法について
研修終了後、申し込み時にフォームへ記載いただいた「振込用紙送付先」へ振込用紙をお送りします。届きましたら、期限までにお支払いください。
なお、お申し込み後にキャンセルされた場合も参加費は請求させていただきます。
- ◆研修の効果を確認するため、事後アンケートにご協力をお願いいたします。
- ◆全プログラムの受講者には修了証をお渡しします。

お申し込みはWebから <https://web.opar.ehime-u.ac.jp>



実施目的

カリキュラムの編成に関わるカリキュラム・コーディネーターに求められる基礎的な知識・技能・態度を育成する。本講座では、カリキュラムの改善において特に重要となる学習成果の評価に焦点を当て、その具体的な方法や留意点を学習する。

到達目標

1. 学生の学習成果にもとづいてカリキュラムを評価する意義を説明できる
2. 学生の学習成果の評価の計画、実施、改善の具体的な方法と留意点を説明できる
3. 所属組織におけるカリキュラム評価の課題とその改善方法を提案することができる
4. 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学びあう雰囲気に貢献する

講師

- 中井 俊樹 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
上月 翔太 (愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
竹中 喜一 (近畿大学 I R・教育支援センター)
服部 律子 (奈良学園大学保健医療学部)
西野 毅朗 (京都橘大学教育開発・学習支援室)

スケジュール

1日目

- 8:30 受付開始
9:00 オリエンテーション
9:30 カリキュラム評価の意義と方法を理解する【中井】
10:40 学習成果の評価の現状と課題 【上月】
11:40 休憩
12:40 アセスメントプランを策定する 【竹中】
13:50 ルーブリックによって評価する 【服部】
15:00 卒業時の学習成果を評価する 【西野】
16:10 在学中の学習データを活用する 【上月】
17:10 質疑応答・連絡事項
17:30 終了

2日目

- 9:00 学生調査によって評価する 【上月】
10:00 評価結果を改善につなげる 【竹中】
11:00 学習成果の評価の課題解決を検討する【上月】
11:20 演習、個別相談 【全講師】
※途中で昼休憩1時間
14:00 グループ内発表
15:20 まとめとふりかえり
15:40 クロージング
16:00 終了

お問い合わせ

愛媛大学教育学生支援部教育企画課
TEL:089-927-9154
mail: kiyoiiku@stu.ehime-u.ac.jp

事前課題

1. テキスト『学習成果の評価』の第1章、第3章、第4章、第11章、第12章を読んでください。
2. テキストの内容を踏まえながら、ワークシートを使って、「所属組織のカリキュラム評価の実践と課題」についてまとめてください。作成後、以下の提出先までお送りください。
3. このワークシートに記載した内容にもとづいて、対面研修時にグループ内で報告できるようにしておいてください。
4. テキストの指定の章以外も講座の中で扱うテーマもあるため、事前に目を通しておくことを推奨します。

* 書籍は参加者各自でご用意ください。
竹中喜一編著(2023)
『学習成果の評価』
(玉川大学出版部、2000円+税)

- 受付完了後にワークシートの様式をお送りします。
- 提出期限:令和6年7月31日(水)
- 提出先:愛媛大学
教育学生支援部教育企画課
kiyoiku@stu.ehime-u.ac.jp

アクセス

近畿大学東大阪キャンパス
(大阪府東大阪市小若江3丁目4-1)

近鉄大阪線「長瀬」から徒歩10分

(近畿大学HP参照)

<https://www.kindai.ac.jp/access/>

- 主催:教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
共催:近畿大学 I R・教育支援センター、大学コンソーシアム大阪
後援:日本高等教育開発協会

II. FD/SDモデルの構築と普及

a. 研修プログラムの提供

第3期の基本方針に基づき15本の研修プログラムを提供し、参加者総数は329名（令和7年3月20日現在）となった。本拠点の研修プログラムは対話形式やワークショップ形式等の双方向型を特徴としており、また、参加者同士のネットワーク形成の機会を提供するため、本拠点や共催校において対面実施を基本とし、プログラムの内容や時間等に応じてオンライン（同期・非同期）も活用した。今年度は、教務、教職関係の初任者を対象とした講座や大学院生等を対象としたプレFD研修を開催し、幅広い受講者のニーズに合わせた研修を提供した。

※各プログラムの内容やアンケート集計結果等の詳細は、P. 18～32に記載。

（本拠点の研修プログラムの特徴）

1. FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・実践的指導者になりうる人材の育成に力を入れている。
2. FD/SD/IR/カリキュラム開発の各種プログラムを実施している。
3. 新人からベテラン、リーダーまであらゆる立場の教職員にとって日々の業務改善につながる実践的な内容である。
4. 数多くのプログラムは、講義形式だけでなく、講師と受講者の間で行う対話形式や、受講者間のディスカッションによるワークショップ形式等の双方向型で実施されている。

教職員能力開発拠点が提供する研修プログラム(令和6年度)

令和7年3月20日現在

日 程	プログラム名	対象	受講者数	満足度
4月18日(木) 【対面】	チームビルディング	FD	8	100
6月1日(土)～2日(日) 【対面】	第38回授業デザインワークショップ	FD	23	100
7月2日(火) 【Zoom】	大人数講義法の基本	FD	25	100
7月16日(火) 【対面】	学習評価の基本	FD	13	100
7月18日(木) 【対面】	アクティブラーニング入門セミナー	FD	15	100
7月19日(金)～20日(土) 【対面】	教職事務担当者講習会(初級編)	SD	35	100
8月8日(木)～9日(金) 【対面】	SDコーディネーター(SDC)養成講座	SD	19	100
8月8日(木)～9日(金) 【対面】	カリキュラム・コーディネーター養成講座 ー学習成果の評価の方法と体制ー	FD/SD	36	93.5
9月10日(火) 【対面】	学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 ー課題分析図の活用ー	FD	4	100
9月10日(火) 【対面】	ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計	FD	4	100
9月12日(木)～13日(金) 【対面】	ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ	FD	20	93.8
8月1日(木)～9月20日(金) 【 Moodle・対面】	教授法入門ー専門分野の学識を教授するために	プレFD	8	100
9月27日(金)～28日(土) 【対面】	教務事務担当者講習会(初級編)	SD	38	100
12月6日(金)～1月31日(金) 【 Moodle】	学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法	FD/SD	20	100
2月22日(土) 【Zoom】	大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー ーチームで業務に取り組むー	SD	61	100
		合計	329	98.9

チームビルディング

【実施概要】

▶講師

村田晋也（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和6年4月18日（木） 13:00～15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

8名
[学内8名]

▶目標

1. チームや組織にとってミッション、ビジョン、ゴールを設定することの重要性を述べることができる。
2. チームや組織にとって、心理的安全性を確保することの重要性を述べることができる。
3. ビジョンや目的達成のためにメンバーがベクトルを合わせ、強みを活かすことの有効性について述べるができる。
4. 自らの活動分野においてチームビルディングの計画案を構築するための基礎的情報について概説できる。

▶内容

1. ミッション、ビジョン、ゴール設定の重要性
2. 心理的安全性の重要性
3. チーム・組織とメンバーとの間のwin-win関係
4. メンバーの強みを効果的に活かす

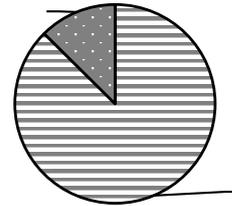
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえばそう思う
13%



④ そう思う
87%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 学生のチームビルディングの目的や方法を学べたので、すぐに授業で活用できそうです。
- OSPTランプがとても面白かったです。授業でも使ってみたいです。

〔この研修の改善点〕

- もう少しチームワークに取り組む時間が長くて良かったと思った。



【研修の様子】

第38回授業デザインワークショップ

【実施概要】

▶講師

中井俊樹、Kawamoto Julia Mika、清水栄子、上月翔太
 (愛媛大学教育企画室)
 仲道雅輝、村田晋也 (愛媛大学教育・学生支援機構)

▶日時

令和6年6月1日(土)～6月2日(日)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
 愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2 ほか

▶参加者

23名
 [学内18名・学外5名_松山短期大学(3)、徳島文理大学(2)、]

▶目標

1. 学生の学習を促すシラバスを書くことができる。
2. さまざまな授業方法の特徴を理解し、学習目標に適した授業方法を選択できる。
3. 教育評価の原理と種類を理解し、学習目標に適した評価方法を選択できる。
4. アクティブラーニングを取り入れた90分の授業の計画を作成できる。
5. 作成した授業計画案にもとづいて模擬授業を実践できる。

▶内容

【1日目】

1. オリエンテーション
2. アイスブレイク
3. ミニ講義Ⅰ「授業設計」
4. ミニ講義Ⅱ「授業実践」
5. ミニ講義Ⅲ「学習評価」
6. ミニ講義Ⅳ「大学教員としての理念と倫理」
7. 授業に関するお悩み相談会
8. 担当科目のシラバスと90分の授業案作成

【2日目】

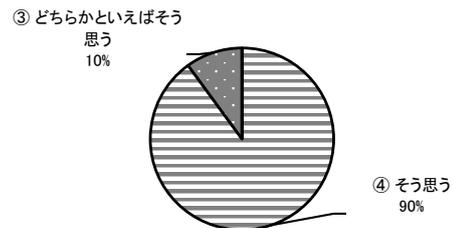
1. シラバスと授業案の発表とピア・レビュー
2. 模擬授業
3. 振り返り
4. 閉会式

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

20名(87%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 違う分野でも、授業に対して共通点があることが感じられました。他の分野の授業を聞いて、考えて、意見を出して、またアドバイスを頂くのが非常に良いプロセスだと思います。大変勉強になりました。ありがとうございました。
- 極々基本的なところ(各回の目的を明示する、発問をおこなう)への気づきを得ることができたことは大きかったですし、他の先生方の授業の触りの部分だけでも模擬授業として受けて意見を出しあえたことは、一番の学びになりました。

〔この研修の改善点〕

- 講義を持っていなかったため、他の参加者に比べてシラバス・授業計画書の作成、模擬授業が負担だったように感じる。簡単な仮想的テーマを設定してそれに沿ってシラバス・授業計画書を作成させてもよいのかと思った。



【模擬授業の様子】

大人数講義法の基本

【実施概要】

▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和6年7月2日（火） 10:00～12:00

▶場所

オンライン開催（Zoom）

▶参加者

25名

[学内17名・学外8名_徳島文理大学(6)、松山東雲短期大学(1)、人間環境大学(1)]

▶目標

1. 大人数講義の利点を説明できる。
2. 講義法の基本について自身の実践を振り返り、改善点を見い出せる。
3. 大人数授業を効率化する工夫を1つ以上挙げることができる。
4. 大人数授業においてグループワークを取り入れる方法を1つ以上挙げることができる。
5. 学習した内容について自分の授業に応用し、実践できる。

▶内容

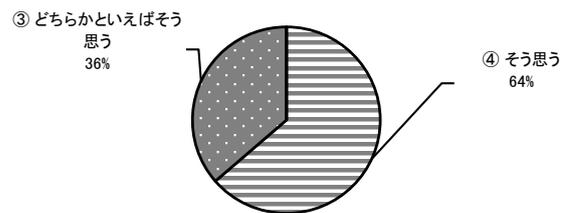
1. 大人数講義の指針
2. 講義法の基本
3. 大人数講義運営の課題
4. 大人数講義でのグループワーク
5. まとめとふりかえり

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

11名(44%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



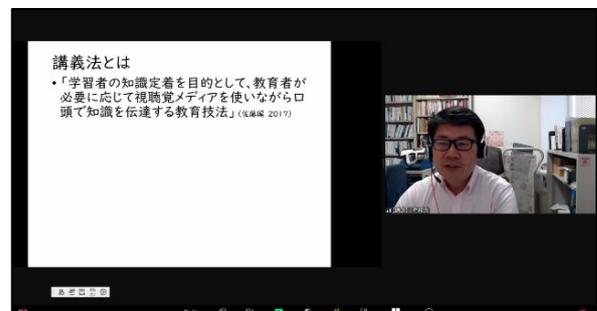
▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 自分自身の傾向を知ることができた。会議においてファシリテーターを務めるために意見を言い過ぎないように注意しようと思った。
- 国語科教育法の授業を担当しており、合意形成をはかる際の注意点をどのように示せばよいか分かっていなかったが、本研修を通じて、その方向性が見えた。

〔この研修の改善点〕

- 議論を活発にするにはどうしたらよいかなどもご教示願えましたら幸いです。



【講義の様子】

学習評価の基本

【実施概要】

▶講師

中井俊樹、真鍋亮（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和6年7月16日（火） 10:00～12:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

13名
[学内12名・学外1名_人間環境大学(1)]

▶目標

1. 学習評価の意義と目的を説明することができる。
2. 学習評価の基本原則を説明することができる。
3. 適切な評価の方法・基準を選択・設定できる。
4. 適切で効果的なフィードバックを行うことができる。
5. 自身の授業における学習評価の改善案をあげることができる。

▶内容

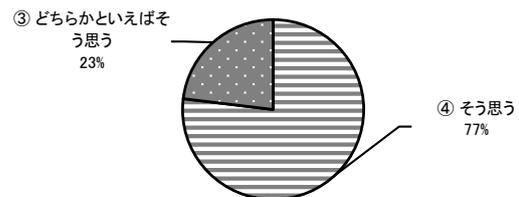
1. 学習評価の構成要素
学習評価の基本原則について扱います
2. 学習評価の方針
授業において学習評価を実践するための方針について考えます
3. 学習評価の方法
主要な評価方法の実践の方法や留意点を考えます
4. 学習評価の実践
参加者の授業実践における学習評価の改善案を考え共有します。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

13名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 評価基準を明確にして、学習のプロセスにも焦点を当てて評価する必要性を認識できた。
- 他の先生方のアイデアに触れることができたため、新たな知見を得ることができたとともに、自分のこれまでの方法を相対化することができた。
- 実習やレポート評価で「これでいいのかな」と思いながら実践している部分が大きかったので、今回の研修で学んだポイントを活かして取り組もうと思います。

〔この研修の改善点〕

- 具体的にどうすればいいのか教えていただけると嬉しいです。ダイニングクルーガー効果のある学生の自己評価をどう成績に反映させるか。
- 本大学の評価に関するデータ(評価方法、評価の割合など)、参考にできるような具体的なデータがあると助けになる気がしました。



【研修の様子】

アクティブラーニング入門セミナー

【実施概要】

▶講師

上月翔太（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和6年7月18日（木） 10:00～12:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

15名
[校内13名・学外2名_聖カタリナ大学(2)]

▶目標

1. アクティブラーニングの意義を説明できる。
2. 適切な学習課題を組み立てるために必要な考え方を説明できる。
3. 授業に学習活動を取り入れる具体的な工夫を複数挙げることができる。

▶内容

1. アクティブラーニングを理解する
2. 学習課題を組み立てる
3. 学習活動を組み立てる



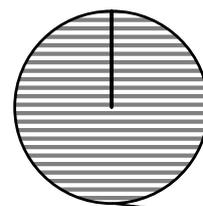
【研修の様子】

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

15名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



④ そう思う
100%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- アクティブラーニングの具体的な例が今後のヒントになった。「本質的な問い」が大切ということを学んだ。
- アクティブラーニングを取り入れていましたが、うまくいかなかったの差があることに課題を感じておりました。目標をもっと明確にしてあげることがまずはスタートかと思いました。
- 多様な分野の教員がどのようなアクティブラーニングをやっているか知ることができた。
- 手法は様々あると思いますが、アクティブラーニングを導入するには、事前に入念な準備をし、目的を明確にすると共に、振り返りが大切だと学びました。

〔この研修の改善点〕

- この講義の後で、授業デザインワークショップの講義を受けたいです。

教職事務担当者講習会(初級編)

【実施概要】

▶講師

多畑寿城 (学校法人行吉学園(神戸女子大学))
 小野勝士 (龍谷大学)
 有馬美耶子 (白百合女子大学)
 石樽三鈴 (中部大学)
 徳丸由紀 (日本文理大学)

▶日時

令和6年7月19日(金)～7月20日(土)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
 愛媛大学工学部2号館3階「PBL演習室345」

▶参加者

35名

[学内7名・学外28名_福井工業大学(3)、広島修道大学(2)、武庫川女子大学(2)、活水女子大学(1)、関西学院大学(1)、岩手県立大学(1)、広島市立大学(1)、高知県立大学(1)、高知大学(1)、阪南大学(1)、山梨県立大学(1)、鹿児島純心女子短期大学(1)、淑徳大学(1)、森ノ宮医療大学(1)、静岡理工科大学(1)、創価大学(1)、大阪国際大学(1)、追手門学院大学(1)、白鷗大学(1)、尾道市立大学(1)、美作大学(1)、北九州市立大学(1)、琉球大学(1)、和光大学(1)]

▶目標

1. 教職事務の代表的な業務の根拠や背景を理解することができる。
2. 教務事務とのかかわりを理解し担当業務に活かすことができる。
3. 教職事務の的確な遂行に必要な情報を自ら収集し、担当業務へ活用することができる。
4. 教職課程の運営を職員の立場で支援することができる。

▶内容

《1日目》

1. オリエンテーション
2. 基礎からの教職課程事務
3. 法令の読み方・情報収集の方法
4. 学生支援
5. 意見交換(対応に困った事例)
6. トークセッション

《2日目》

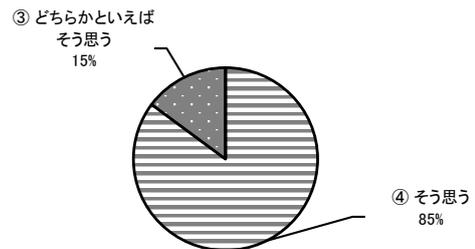
1. 課程認定申請の流れ・ポイント
2. 教育実習・介護等体験のポイント
3. 事務職員の立場・役割について
4. 意見交換(これまでのセッションをふまえて)
5. トークセッション

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

27名(77%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 教職について、法令や学生支援等、1つの分野のみならず、広く学ぶことができた点です。
- 実際に教育実習や介護等体験を担当している方と話すことで、現状困っていることの共有や相談ができ、他大学が行っている方法を知ることができた。対面開催だからこそ、他大学に立ち入った話を相談することができ、有意義な時間だった。
- 法令の読み方など今更聞けないことや業務の引継ぎでは教えてもらえない、その根拠、これまでの経緯を聞いて勉強になりました。

〔この研修の改善点〕

- 可能であれば、大学の規模や学生数、教職履修者数、各大学の教職システムなどをまとめたうえ、受講できると比較しながら参考にすることができて良いのではないのでしょうか。
- 本研修は教職事務に携わっていない方でも聞いた方がよい内容だと感じたため、会場に来られない方向けにオンラインでも開講してはいかがでしょうかと感じました。



【集合写真】

SDコーディネーター(SDC)養成講座

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（近畿大学）
 葛西崇文（大阪女学院大学）
 近藤智彦（愛知大学）
 佐藤浩輔（大阪体育大学）
 宮原秀明（大阪学院大学）
 清水栄子、高木佳代子（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和6年8月8日（木）～8月9日（金）

▶場所

近畿大学 東大阪キャンパス3号館4階401教室

▶参加者

19名

[学内0名・学外19名 城西大学(2)、藍野大学(2)、佛教大学(2)、京都芸術大学(1)、九州栄養福祉大学(1)、公立鳥取環境大学(1)、札幌市立大学(1)、神戸学院大学(1)、神奈川大学(1)、青森公立大学(1)、大阪公立大学(1)、大阪産業大学(1)、東京理科大学(1)、徳島工業短期大学(1)、日本大学(1)、武庫川女子大学(1)]

▶目標

1. 人材育成ビジョンの意義を理解したうえで、その構築手法を説明することができる。
2. 自らのキャリアを開発するために、スタッフ・ポートフォリオ(SP)を作成することができる。
3. 職員のキャリア開発を支援するために、メンタリングを行うことができる。
4. SDの実践力を身につけるために、SDプログラムを企画・運営・評価することができる。
5. SDに関する多様な考え方や経験を尊重し、共に学び合う雰囲気をつくることができる。

▶内容

《1日目》

1. オープニング・オリエンテーション
2. 大学職員の能力開発を理解する
3. スタッフ・ポートフォリオとメンタリングを理解する
4. メンタリングを実践する
5. 研修プログラムを企画・運営する
6. 研修プログラムを評価する
7. 演習：事前課題の共有

《2日目》

1. 人材育成ビジョンの構築とSDの体系化を図る
2. 演習：SDの企画案の作成と個別相談
3. 演習：SDの企画案の共有
4. 全体共有と振り返り

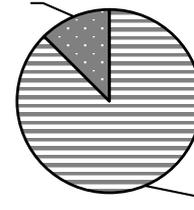
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

16名(84%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえばそう思う
13%



④ そう思う
87%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 目標、目的の明確化、あるべき姿の職員像の共有、スモールステップから取り組むこと、SD研修をして終わりではなく、評価、継続などの重要性を改めて認識できました。
- アクションプランをブラッシュアップができる点が良い。課題点に気付ける。
- 過去に研修に参加し、SDCを取られた方々が講師として参加していらっしやるのが、研修の説得力という面でも、また、「自大学でもできる・頑張ろう」という意識の面でも非常に有効的だと感じました。

〔この研修の改善点〕

- 講師の先生のSD研修を実施された際の成功体験、失敗談などのお話のよりリアルなお話を聞いてみたいと思いました。
- 一旦、全ての参加者が同じ条件で、研修を具体的にプランニングする練習の機会があればより良かったのではと考えます。
- SDCを継続して学びたい場合に今後どのような学修ができるか気になりました。



【集合写真】

カリキュラム・コーディネーター養成講座 -学習成果の評価の方法と体制-

【実施概要】

▶講師

竹中喜一（近畿大学）
服部律子（奈良学園大学）
西野毅朗（京都橋大学）
中井俊樹、上月翔太（愛媛大学教育企画室）

▶日時

令和6年8月8日（木）～8月9日（金）

▶場所

近畿大学 東大阪キャンパス3号館4階402教室

▶参加者

36名

[学内0名・学外36名 近畿大学(12)、愛知工業大学(2)、京都文教大学(2)、森ノ宮医療大学(2)、北陸大学(2)、茨城キリスト教大学(1)、宮崎学園短期大学(1)、京都芸術大学(1)、公立鳥取環境大学(1)、皇學館大学(1)、尚綱学院大学(1)、新潟青陵大学・新潟青陵大学短期大学部(1)、摂南大学(1)、大阪国際大学(1)、大阪女学院大学(1)、大阪体育大学(1)、大正大学(1)、中京大学(1)、帝塚山学院大学(1)、藤女子大学(1)、名古屋芸術大学(1)]

▶目標

1. 学生の学習成果にもとづいてカリキュラムを評価する意義を説明できる
2. 学生の学習成果の評価の計画、実施、改善の具体的な方法と留意点を説明できる
3. 所属組織におけるカリキュラム評価の課題とその改善方法を提案することができる
4. 大学のカリキュラムに関する多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学びあう雰囲気貢献する

▶内容

《1日目》

1. オリエンテーション
2. カリキュラム評価の意義と方法を理解する
3. 学習成果の評価の現状と課題
4. アセスメントプランを策定する
5. ルーブリックによって評価する
6. 卒業時の学習成果を評価する
7. 在学中の学習データを活用する
8. 質疑応答・連絡事項

《2日目》

1. 学生調査によって評価する
2. 評価結果を改善につなげる
3. 学習成果の評価の課題解決を検討する
4. 演習、個別相談
5. グループ内発表
6. まとめとふりかえり

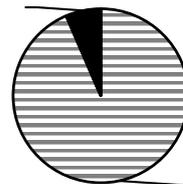
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

31名(86%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった

② どちらかといえばそう
思わない
6%



④ そう思う
94%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- これまで点だった事柄や要約がつながりをもって自分の中に入ってきたと感じる。特にカリキュラムルーブリックの考えは、科目同士のつながり、DPとの紐づけなど、大変納得感のあるものでした。また、2日間の集中講座だったことで、一連の流れをもって理解できたことも良かったです。
- 個別面談で具体的なアドバイスをいただけたことや、グループワークで他学の取り組みの生の声を知ることができた。
- アウトプットにつながるワークプランを作成することで、業務に持ち帰った際に行動にうつしやすくなったこと。

〔この研修の改善点〕

- グループ内での議論は進んだが、他のグループがどういうディスカッションをしていたのか知る機会があれば良かった。
- 今回、SDC講座も隣で実施されていたので、参加者間での交流会を設定することでより知見やネットワーク構築に活かせる機会になったのではないかと、思いました。



【集合写真】

学生の学びやすさと学習意欲を高める授業設計 -課題分析図の活用-

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和6年9月10日（火） 13:00～15:00

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

4名
[学内0名・学外4名_愛媛県立医療技術大学(3)、徳島大学(1)]

▶目標

1. 学習目標を行動目標として明確に表現できる。
2. 自身の教授内容の課題分析図が作成できる。
3. 課題分析の結果をもとに、授業構成の改善案を立てることができる。

▶内容

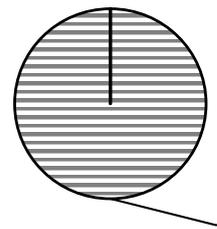
学生の学びやすさと学習意欲を高めるために、いくつかのID（インストラクショナル・デザイン）理論を用いて授業設計の手法を学びます。学習意欲は、学びやすさによって維持・促進され、動機づけによって高めることができます。学びやすさや意欲を設計するためには、教員が自身の教授内容を明確にし、学生目線で再構築する作業が必要です。その第一段階として、学生に対して「この授業で何ができるようになればよいのか」が具体的に伝わる学習目標を提示します。次に教員の頭にある既に構成された教授内容を一旦分解します。これを課題分析といい、分解した学習要素をより学びやすく、意欲の向上に効果的な学習順序になるよう再構築します。本プログラムでは、課題分析のワークを通じて、これからの授業改善に役立つヒントを持ち帰っていただきます。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

4名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



④ そう思う
100%

▶コメント

[この研修の良かった点]

- 実際に自分の科目で課題分析をして、他の人の意見を聞いたことで、自分だけでは気付かない視点に気付けた。
- 自分の授業で困っている点を解決するヒントをいただきました。



【研修の様子】

ARCS動機づけモデルを活用した学習意欲を高める授業設計

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和6年9月10日（火） 15:15～17:15

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2

▶参加者

4名

[学内0名・学外4名_愛媛県立医療技術大学(3)、徳島大学(1)]

▶目標

1. 「インストラクショナル・デザイン(ID/教育設計)」が課題解決の方法論であることを説明できる。
2. 自分の授業を振り返り、到達目標を明確化するためのポイントが説明できる。
3. 学習者を動機づけるための一つの手法(ARCS動機づけモデル)を活用し、授業設計のヒントを得ることができる。

▶内容

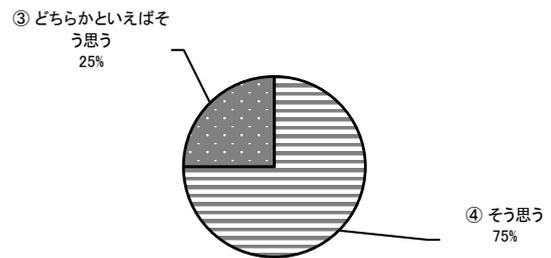
本プログラムでは、これまで自身が実施してきた教育に対する考え方や実施方法について見つめ直し、何が課題であるかについて考えるところからはじめ、教育をより効果的・効率的・魅力的にするための方法論であるインストラクショナルデザイン(教育設計)(以下、IDという)の中から、学習者を動機づけするための手法(ARCS動機づけモデル)や学習者の学びを支援するための働きかけに関する理論を事例とともに学び、ワークショップ形式にて課題解決策の糸口を探っていきます。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

4名(100%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

[この研修の良かった点]

- 動機付けについて、一方向からのアプローチではなく、様々なアプローチを重ねていくことも必要だと学べた。
- 授業やグループワークのやり方を学ぶことができました。教員が全て教える必要はないということが、今まで考えられていなかったことです。



【研修の様子】

ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ

【実施概要】

▶講師

中井俊樹、中山晃、Kawamoto Julia Mika、清水栄子、
上月翔太（愛媛大学教育企画室）
仲道雅輝、丸山智子、村田晋也
（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和6年9月12日（木）～13日（金）

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス
愛大ミュージアム アクティブ・ラーニングスペース2 ほか

▶参加者

20名
[学内18名・学外2名・徳島文理大学(1)、高知大学(1)]

▶目標

1. ティーチング・ポートフォリオ（TP）とは何かを説明できる。
2. ティーチング・ポートフォリオの必要性・有効性について説明できる。
3. ティーチング・ポートフォリオ作成の要点と手順を説明できる。
4. ティーチング・ポートフォリオを作成できる。

▶内容

《1日目》

1. オリエンテーション
2. 第1回個人ミーティング
3. TP作成作業
4. 第2回個人ミーティング

《2日目》

1. TP作成作業
2. 第3回個人ミーティング
3. TP作成作業
4. 第2校原稿確認
5. TP発表・閉会式

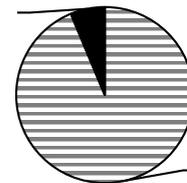
【アンケート結果】

▶回答者（回答率）

16名（80%）

▶満足度：全体的に満足できるものだった

②どちらかといえばそう
思わない
6%



④そう思う
94%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 教育の理念や方法などを明確に言語化し整理整頓する良い機会となり、今後の教育活動を組み立てていくうえで大いに参考になった。
- メンターとの対話しながら自身の教育活動を振り返ることで、これまで気づかなかった視点を得られた点です。また、同じグループの先生方の発表から授業のヒントをいただけたことも良かったです。

〔この研修の改善点〕

- 事前に過去のティーチング・ポートフォリオを閲覧できる機会を設けてはどうでしょうか。ワークショップにのぞむにあたって、最終的に何を作成するのかわかると目標になると思います。
- 一日目の終わりあたりに、ティーチング・ポートフォリオ作成の途中経過として、グループ内で各自が書きあぐっている点などをディスカッションする時間があると良いと思った。個人的にはそういった点をグループメンバーと少し話をしたりしたが、ある程度まとまった時間、グループディスカッションをする場を設けると、ブラッシュアップの一助となるのではないかと。



【集合写真】

教授法入門-専門分野の学識を教授するために

【実施概要】

▶講師

中井俊樹、Kawamoto Julia Mika、上月翔太
(愛媛大学教育企画室)

▶日時

〈オンデマンド学習〉令和6年8月1日(木)~9月13日(金)
〈対面研修〉令和6年9月20日(金) 13:00~18:00

▶場所

〈オンデマンド学習〉Moodle
〈対面研修〉愛媛大学 城北キャンパス
共通講義棟A 4階 アクティブラーニングルーム

▶参加者

8名
[学内8名]

▶目標

1. 大学において指導や教育に携わる意義を説明できる。
2. 授業設計と学習評価の基本を踏まえたシラバスを書くことができる。
3. わかりやすい説明や学習者の活動を取り入れた授業を計画し実践できる。
4. 教育の倫理について自身を省察し意識した言動をとることができる。
5. 異なる専門分野の受講者と積極的にかかわりながら共に学び合うことに貢献できる。

▶内容

《オンデマンド学習》

1. 導入: 授業の説明、大学教育や人材育成を取り巻く社会的文脈
※希望者に対して参加任意の対面オリエンテーションも実施
2. 授業設計: コース設計の基本、クラス設計の基本
3. 学習評価: 学習評価の基本、学習評価の実践例
4. 授業方法: 講義法とは、アクティブラーニングの実践方法
5. 教育における倫理: 倫理を意識する必要性、倫理観の向上方法

《対面研修》

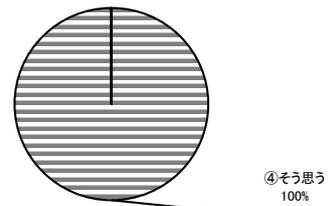
1. シラバスと授業計画書のピアレビュー
2. マイクロティーチング(模擬授業)の実践
3. 全体のまとめ

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

8名(100%)

▶満足度: 全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- 様々な研究分野の方、あるいは立場の方がおられて刺激的な時間でした。
- 具体的なテクニックの部分や「教育とは…」という根底にかかわるところまで幅広く学べた。
- 教授の方法に自信がなかったが、講義法やアクティブラーニングの具体的な方法を学べて自信になった。
- 日常において、今回のような「人への伝え方」について学ぶ機会はほとんどない。このため、非常に良い機会となった。また、自分の弱点(できていないこと)を認識することができた。

〔この研修の改善点〕

- シラバスは8回ではなく、15回分の方が組みやすい気がしますので両方から任意で選んでもよかったです。
- 導入の部分のテクニックがもっと知りたかった。



【模擬授業の様子】

教務事務担当者講習会(初級編)

【実施概要】

▶講師

宮林常崇(東京都立大学)

小野勝士(龍谷大学)

大津正知(茨城大学)

【教育企画支援若手プロジェクトチームメンバー】

前河泰正(大阪国際大学)

龍山雄太(日本工業大学)

向井晴香(愛媛大学教育学生支援部)

▶日時

令和6年9月27日(金)～9月28日(土)

▶場所

愛媛大学 城北キャンパス

愛媛大学工学部2号館3階「PBL演習室345」

▶参加者

38名

[学内9名・学外29名_三重大学(4)、高知大学(3)、人間環境大学(3)、徳島大学(3)、松山大学(2)、福井工業大学(2)、愛知県立大学(1)、岡山理科大学(1)、高松大学(1)、高知リハビリテーション専門職大学(1)、鳴門教育大学(1)、早稲田大学アカデミックソリューション(1)、大阪国際大学・大阪国際大学短期大学部(1)、大阪体育大学(1)、東京電機大学(1)、東京都立大学(1)、国立専門学校機構(1)、文教大学(1)]

▶目標

1. 教務事務の代表的な業務の根拠や背景を理解することができる。
2. 大学の裁量を理解し担当業務に活かすことができる。
3. 教務事務の的確な遂行に必要な情報を自ら収集し、担当業務へ活用することができる。
4. 教育プログラムの開発を職員の立場で支援することができる。

▶内容

《1日目》

1. オリエンテーション
2. 教務事務の心構え
3. 法令の読み方
4. 教務事務を取り巻く法令・制度 I
5. 歴史から学ぶ
6. 本日の振り返り

《2日目》

1. 教務事務を取り巻く法令・制度 II
2. 教学組織の理解と教職協働
3. ケーススタディ I
～教育プログラムの企画を支援する～
4. ケーススタディ II
～多様な学生を支援する～
5. 教務系業務を探索する
6. まとめと振り返り

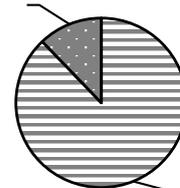
【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

33名(87%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった

③ どちらかといえば思う
12%



④ そう思う
88%

▶コメント

〔この研修の良かった点〕

○今年の4月から担当になって、正直、まず初めに何から理解したらいいのかわからなくて困っていました。まずは、今回の研修の内容をきっかけにして、理解を深めていきたいです。

○「教務」という業務の奥深さを知ることができました。大学の裁量が大きく、自由度が高いことから、大学独自のルールやポリシーがあることを学び、自身の属する大学への興味が増しました。

○教務事務を取り巻く法令に関する研修では、基幹教員に関する要件や算出方法に関して、最新情報へのアップデートがわかりやすく行えたので、とても貴重な機会となりました。大学の根幹である学位や教学運営に関する事なので、こういった法令や制度に関する研修は教員も受講するべきだと感じました。

〔この研修の改善点〕

○各大学の規則や制度について、他大学との違いを研修内で確認できるように学則等を持参してもよかったと感じています。持参物として所属大学の規則を持ち寄るようにしたり、ワークのなかで「算入する・しない」がどうなっているか確認したりできれば、研修内容と紐づけながらより自身の大学への理解も深まると考えます。



【集合写真】

学生の授業時間外学習を促すシラバス作成法

【実施概要】

▶講師

仲道雅輝（愛媛大学教育・学生支援機構）

▶日時

令和6年12月6日（金）～令和7年1月31日（金）

▶場所

オンライン開催（愛媛大学Moodle）

▶参加者

20名

〔学内14名・学外6名_高知大学(3)、香川県立保健医療大学(1)、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学(1)、高知リハビリテーション専門職大学(1)〕

▶目標

1. シラバスの役割を説明することができる。
2. 授業の「目的」と「到達目標」との違いを説明することができる。
3. 適切な「目的」「到達目標」を書くことができる。
4. 学習者が自学自習に励むようなシラバスを書くことができる。

▶内容

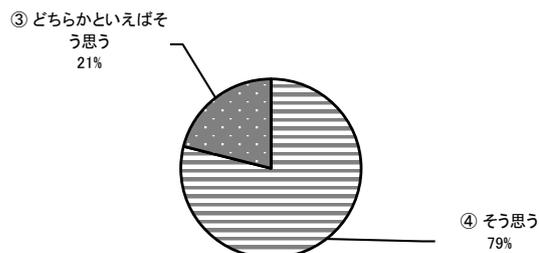
1. 授業デザインの考え方
2. シラバスとは何か？
3. 授業科目名・キーワードの書き方
4. 目的の書き方
5. 目標の書き方
6. 授業概要・スケジュールの書き方
7. 授業時間外での学習を促す戦略
8. 受講条件の書き方
9. 受講ルールの書き方
10. 教材に関わる情報の書き方
11. 評価方法の書き方

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

19名(95%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

〔この研修の良かった点〕

- シラバスの書き方はプレFDでも学んだことがあるが、実際にシラバスを書くタイミングでこのような研修を受講でき、過去の知識を想起することができて良かった。
- 普段つい避けがちなシラバスにおける緻密な構造化がやはり重要であることを再認識した。また小テストでシラバスの書き直しを実際に行うことでいい練習になった。
- シラバスを前任の教員や他大学の同様の講義に頼りにしがちであったが、まずはシラバスの作成の基本を学ぶ機会が得られたことが良かった点でした。
- 目的と到達目標の違いや具体的な書き方について学ぶことができた。

〔この研修の改善点〕

- 学生目線は大切だと思うが、日々の講義では、コメントシートに質問や学びをたくさん書いてくれたり、オフィスアワーに質問に来たり、講義後に質問に来たりする自律性が高い学生が多いと感じるので、大学という高等教育機関において、どの程度の学生の目線に合わせるべきなのかは疑問に思った。

大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー ～チームで業務に取り組む～

【実施概要】

▶講師

宮林常崇（東京都立大学）
大竹秀和（立教大学）
岩田剛（愛媛大学国際連携支援部）

▶日時

令和7年2月22日（土） 13:00～16:00

▶場所

オンライン開催（Zoom）

▶参加者

61名

[学内5名・学外56名_東京都立大学(4)、福井県立大学(4)、東京音楽大学(3)、近畿大学(2)、九州工業大学(2)、大阪公立大学(2)、武蔵大学(2)、ノートルダム清心女子大学(1)、愛知工業大学(1)、久留米工業大学(1)、宮崎国際大学(1)、熊本県立大学(1)、広島女学院大学(1)、甲南大学(1)、国際基督教大学(1)、国士舘大学(1)、山梨学院大学(1)、鹿児島大学(1)、秀明大学(1)、信州大学(1)、新潟大学(1)、神田外語大学(1)、相山女学園大学(1)、成城大学(1)、摂南大学(1)、創価大学(1)、多摩大学(1)、大阪国際大学(1)、長岡技術科学大学(1)、東海大学(1)、東京大学(1)、東京電機大学(1)、東京理科大学(1)、日本赤十字九州国際看護大学(1)、日本福祉大学(1)、福井大学(1)、福岡大学(1)、法政大学(1)、北海道大学(1)、北九州市立大学(1)、明治大学(1)、藍野大学(1)、立正大学(1)、龍谷大学(1)]

▶目標

1. それぞれの立場で自大学における教育の国際化に貢献することができる。
2. 学生の海外派遣と留学生受入に関する基本的な業務について、リスクを理解し、担当者個人ではなくチームで対応することができる。
3. 国際化を取り巻く様々な学内関係者との協働に有効な知識・理解を身につけ、職場で実践することができる。

▶内容

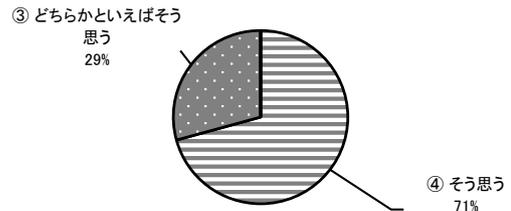
1. オリエンテーション
2. 第1部【基礎知識&マネジメント】
学内対話の切り口をみつける
3. 第2部【基礎知識】
国際化特有の業務における特徴と課題
①海外派遣業務編 ②留学生受入業務編
4. 第3部【マネジメント】
専門人材がゼロ
～少人数の組織におけるマネジメントを考える～
※第1～3部通しての受講を推奨するが、興味関心に合わせて、一部のみの受講も可。

【アンケート結果】

▶回答者(回答率)

41名(67%)

▶満足度:全体的に満足できるものだった



▶コメント

【この研修の良かった点】

- テキストが事前に提示されていて、それをおさらい的に大事なポイントをさらにお話しいただいた点。あと事例が多く、大学業界ならではの課題点に分かりやすかった。
- 具体的な事例とともに、注意点を共有いただけたこと。国際化にはこれほどの業務があるのかと書籍により可視化でき、さらに経験者のご自身の経験から具体的に教えてくれたこと。
- 具体的な基礎知識や事例の紹介と仕事の取り組み方等の業務全般に関わる部分の両面からまとめていただけており、業務へのモチベーションアップにつながった。

【この研修の改善点】

- 今回は主に国際課のような部署以外の方や管理職に知ってほしい国際化の基礎知識でしたが、今後は国際課のような部署向けの内容等も研修メニューであるといいなと思いました。
- 実際の事例を用いた海外派遣（発達障がい疑われる学生が海外派遣をするときの対応含む）や留学生の受入れ（イベント実施の回数、外部委託の有無、受け入れに伴う書類のオンライン化）をぜひ取り入れてほしいです。

教職員協力関係員(愛媛大学国際連携支援部) 主催事業

大学教育国際化 基礎知識&マネジメントセミナー ～チームで業務に取り組む～

令和7年2月22日（土） 13:00～16:00

- 会場 オンライン（Zoom）
- 対象 大学教育の国際化に関心をもつ教職員
 - 教務、学生支援、施設、庶務、会計など、担当業務に国際化の視点が必要とされている職員
 - それぞれの経験で国際化の推進役を担っている教職員

※教職員業務に勤務されている方の参加はお願いしております。
●参加費 無料（学内および学外共通）

お申し込み
1月7日（火）～2月14日（金）正午
お申し込みは以下のURLからZOOMコードをお申し込みください。
<https://bit.ly/38888888>

●お申し込みいただいた情報は、事務局でのみ取り扱われます。

実施目的
このセミナーでは、一時的に大学で国際化の推進を担う必要がある多くの教職員が共通して持っている国際化の推進に必要な基礎知識、共通の課題を共有し、また、自分の業務を推進する上で必要としている知識を身につけることを目的としています。
大学教育の国際化の推進には、多くの学内教職員が協力が必要であり、その推進の中心となる「学内対話の切り口」を共有できれば幸いです。国際連携支援部の活動にも、ぜひご参加いただきたく存じます。

【セミナーチラシ】

b. 研修講師派遣

本拠点では、全国の高等教育機関等からの多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、講師派遣を行っている。今年度は45機関に対し、54件の講師派遣を行い（令和7年3月20日現在）、研修講師や研修内製化のためのアドバイスを行う等、それぞれの組織で必要とされる人材育成の取組に、本拠点のノウハウを提供した。講師派遣先には、事後に報告書やアンケート結果の提出を依頼し、その成果の確認や今後の改善に供している（講師派遣先から提出された報告書の一部をP. 35～37に掲載）。

<令和6年度講師派遣件数>

令和7年3月20日現在

地区	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	合計
派遣件数	1	1	13	5	13	8	9	4	54

※愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室スタッフ・愛媛大学認定研修講師担当分を計上。

<講師派遣先での研修プログラム例>

- ◆大学のカリキュラムの特徴と編成方法
 - ◆アクティブ・ラーニングを活用した授業マネジメント
 - ◆大学教員の役割と評価の在り方
 - ◆教育の質保証に向けた教育方法
 - ◆大学教職員として知っておきたい高等教育学
 - ◆アクティブ・ラーニングの基本的な方法
 - ◆SDの必要性や他大学での取り組み事例
 - ◆アカデミック・アドバイジング
- 等

<研修講師派遣先からの声（事後アンケート自由記述より一部抜粋）>

- ・さまざまなアクティブ・ラーニングの手法を比較しながら知ることができてよかったです。定期的にFDで自身の授業スタイルを振り返っておくことが重要であると思いました。
- ・本学の現時点でどのようなSDが必要か、「難しい」「すぐには答えが出ない」ところから、少しでも具体的に考えていく一歩になったと思います。
- ・研修内でも何度も出てきたように、これから先は教育とAIは切り離せないものになると思う。日々の授業でもいかにAIにとってかわられることのない人材を養成するか意識しているため、勉強になった。
- ・教員になってまだ経験が浅く、場当たりの発問となっている自覚があった。次の実習や演習から活用できるような、具体的な発問の方法を知ることができてよかった。
- ・教員評価については学内での試行錯誤を繰り返していたが、今回のように外部の識者をお招きし、多くの教職員で共通の知見を得られた点が何よりも良かった。

<組織開発支援を目的とした講師派遣>

「第3期教職員能力開発拠点の事業等に関する基本方針」に基づき、組織開発支援を目的とした講師派遣を行っている。この取組では、カリキュラム改善や研修体系の構築といった特定の課題解決に向けたコンサルティング等、依頼元の高等教育機関が持つ個別のニーズに沿った支援を提供している。以下に令和6年度の取組の例を示す。

◆学生の学習サポートに関する支援

依頼元機関の学部の枠を越えて複数の分野を横断して学ぶことのできる教育プログラムにおいて、アカデミック・アドバイジングによる履修支援や学習支援の観点からプログラムの実施状況の評価および助言を行う評価委員として派遣した。

依頼元機関の自立学習支援プログラムにおいて、学生への学習支援活動や同支援に対する評価・効果検証方法について助言を行うため、アドバイザーとして講師を派遣した。

◆カリキュラム・アセスメントに関する支援

依頼元機関の教職員を対象とした授業デザインワークショップやティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップの研修講師を務めるとともに、授業コンサルテーションやその他の学内研修に関する助言を複数回実施した。また、カリキュラム・アセスメントに関する専門的な知識を提供することを目的にアドバイザーとして講師を派遣した。

◆FDに関する支援

依頼元機関の教育内容の改善及び向上を目的としたFD活動において、取組の活性化や後進の育成を図るため、アドバイザーとして定期的に講師を派遣した。新任教員を対象にした研修の実施を講師として務める他、オンデマンド形式による全学FD研修の講師の担当、FD活動に関する助言や指導、特定テーマに関する専門性をもつ他の講師の紹介を行うなど、依頼元組織のFD活動を活発にするための各種業務を行った。

◆同一機関への複数回の講師派遣

依頼元機関のニーズに合わせたFD・SD研修を実施するため、複数回の講師派遣を行った。依頼元機関が希望する研修内容に合わせて、各専門分野の講師を派遣する等、依頼元機関の要望に柔軟に対応しながら組織開発に繋がる支援を行った。

東京理科大学・山陽小野田市立山口東京理科大学からの報告書

研修名：「教育の質保証に向けた教育方法」

講師：中井 俊樹（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 教授）

参加者：東京理科大学 61名（教員54名、職員7名）

山陽小野田市立山口東京理科大学 58名（役員2名、教員51名、職員5名）

会場：東京理科大学野田キャンパス16号館1階1611教室

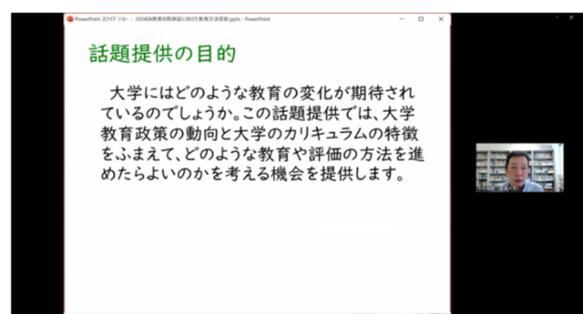
またはZ o o mによるオンライン参加

<概要等>

本研修では、愛媛大学の中井俊樹氏を講師としてお招きし、「教育の質保証に向けた教育方法」をテーマに講演いただいた。

同氏の講演では、昨今の大学教育政策の動向や大学のカリキュラムについて解説いただき、大学教育の制度的な側面について理解を深めた。その後、「教育の方法」「教育評価の方法」について紹介いただき、生成系AIを活用したルーブリック評価の手法など、実践的な教育法について理解を深めた。

講演終了後は、質疑応答の時間を設け、教育現場における諸課題について活発な意見交換が行われた。



武庫川女子大学からの報告書

研修名：「SDの必要性や他大学での取り組み事例」

講師：清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授）

参加者：13名（職員13名）

会場：武庫川女子大学 附属図書館2階 ラーニングコモンズ

<概要等>

愛媛大学の清水栄子氏を講師に、「SDの必要性や他大学での取り組み事例」をテーマにSD推進委員会勉強会を行った。

SDが求められる背景や能力開発の方法、愛媛大学を始めとした他大学での取り組み事例について学び、ペアや小グループでそれぞれの意見を共有しながら研修が進められた。また、講師からの「武庫川女子大学ではどのようなSDが必要だと考えるか？」という問いかけに対し、受講者同士で活発な意見交換がなされた。

今回の勉強会を、コロナ禍等により停滞してしまったSD活動の再開のきっかけにしたいと考えている。



追手門学院大学からの報告書

研修名：「アクティブ・ラーニングを活用した授業マネジメント」

講師：清水 栄子（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授）

参加者：10名（教員10名）

会場：追手門学院大学 総持寺キャンパスA321教室

<概要等>

愛媛大学の清水栄子氏を講師に、「アクティブ・ラーニングを活用した授業マネジメント」をテーマに研修を行った。

本研修の目標は次の4つである。

- ① アクティブ・ラーニングが必要とされる理由を説明できる
- ② アクティブ・ラーニングのメリット・デメリットを具体的に説明できる
- ③ 担当授業で活用できる（できそうな）アクティブ・ラーニングの手法を列挙できる
- ④ アクティブ・ラーニングの手法を実践できる

本研修自体も、アクティブ・ラーニングの考え方に基づいて行われた。受講者は、アクティブ・ラーニングの基本的な考え方、学生が授業に能動的に参加できるような様々な講義法や教員・学生間の双方向性を高める教育手法について学習しながら、グループワークおよび個人ワークを通じて、授業で導入できるアクティブ・ラーニングを検討した。



高知リハビリテーション専門職大学からの報告書

研修名：「発達障がいのある学生に配慮した授業づくり」

講師：三浦 優生（愛媛大学教育・学生支援機構 准教授（教育企画室 認定研修講師））

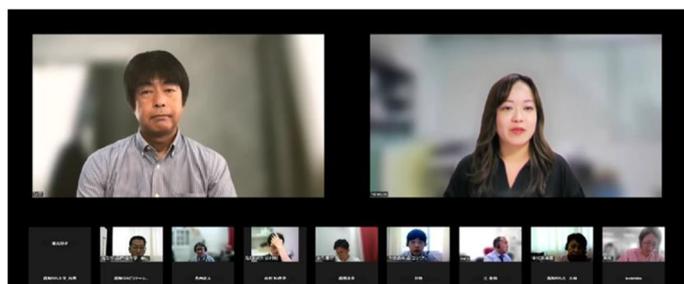
参加者：オンライン受講：19名（教員14名、職員5名）

オンデマンド受講：6名（教員4名、職員2名） / 会場：オンライン

<概要等>

愛媛大学の三浦優生氏を講師に、「発達障がいのある学生に配慮した授業づくり」をテーマに研修を行った。

まず、特別な配慮を必要とする学生に向けた合理的配慮、支援の状況について解説があった。その後、実際にどのような授業づくりをしていけばよいのか8つのポイントに分けて、何が困難であるか、それにより何が難しいか、学生に対して配慮できる具体的な授業方法はどのようなものがあるかという研修を行った。最後に質疑応答があり、合理的配慮を受ける手続きや、臨床実習時の対応方法等について意見交換がなされた。



藍野大学短期大学部からの報告書

研修名：「教育者と学習者の立場に立った講義法」

講師：阿部 光伸（愛媛大学教育・学生支援機構 講師（教育企画室 認定研修講師））

参加者：28名（教員27名、職員1名） / 会場：オンライン

<概要等>

国立大学法人愛媛大学教育・学生支援機構 阿部光伸先生を講師に迎え、「教育者と学習者の立場に立った講義法」をテーマにFD研修を行った。

まず、研修テーマの解題が行われた上で、授業において重要となる10項目について、受講者がセルフチェックを行った。セルフチェックで受講者自身の授業観を確認した後、講師が授業内で用いている内容を元にワークを挟みながら、10項目における具体的な授業スキルについて説明があった。ワークでは、講師が口頭で行った説明をもとに受講者自身が白紙に書き込み、その結果をZoom画面上で共有した。画面上には様々な結果が並び、同じ説明を受けても、人によって全く異なる解釈となることを体感した。

研修会終了後のアンケートでは、「とてもわかりやすい講義であった。早速90/20/8の法則を実践していこうと思う。」「授業を行う上で学生のやる気をいかに引き出すかなどの方法などが具体的で面白かったです。」等の意見があり、各教員が自己の授業方法を見直す機会となった。



鳥取看護大学からの報告書

研修名：「実習指導で活用できる発問と応答のスキルを学ぶ」

講師：高橋 平徳

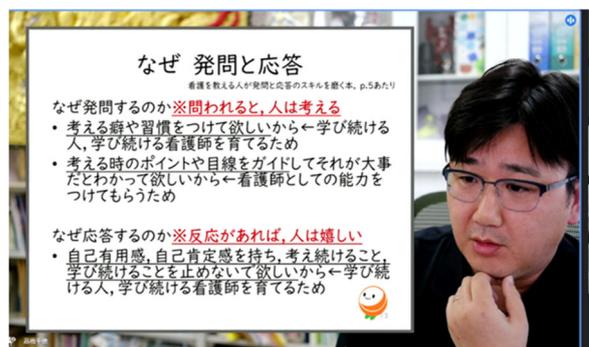
（愛媛大学次世代人材育成拠点地域未来教育部門兼教職総合センター 准教授

（教育企画室 認定研修講師））

参加者：112名（臨地実習施設35施設87名、教員25名） / 会場：オンライン

<概要等>

看護学生の臨地実習指導に関わる実習指導者ならびに実習指導教員の「実習やカンファレンスの際に学生の発言を引き出すのに苦労している」「発問や応答に焦点をあてたファシリテーションのコツを学びたい」「実習指導で活用できるよう自身の発問力と応答力を高めたい」に答えるために、愛媛大学の高橋平徳氏を講師に招き、指導者と学習者の間の「発問」「返答」「応答」の関係性や、なぜ「発問」と「応答」が必要かつ重要なのか、「発問」のコツや具体例、授業や話し合いの流れに応じた「発問」の種類や具体例などについてご講義いただいた。



c. 情報発信

教育改革や改善を進めるためには、現状を把握し分析することが第一歩となる。本拠点では、学生の学びと成長に関わる各種データの収集・分析を行い、情報を公開している。

今年度は、教学IR担当者への支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組報告を掲載した、教育企画室ニュースレター「IR News Vol. 12」を発行した。また、ブックガイド「大学教職員のための56冊」も発行した。これは、平成27年度「大学教職員のための32冊」、令和3年度「大学教職員のための48冊」に続く第3弾として、大学教職員に役立つ書籍を新たに選考したものである。これらの刊行物は、学内のみならず研修等で全国の大学教職員へ広く配布している。

令和5年度に開設したYouTube「愛媛大学FD・SDチャンネル」

(https://www.youtube.com/@aidai_fdsd) では、本拠点に関連した各種FD・SDに関する動画を継続して公開している（今年度公開数：57本、合計：75本）。今年度はさらに「愛大学習チャンネル」(https://www.youtube.com/@aidai_learning) を新設し、大学生の「学び」を支援するコンテンツを投稿した。

さらに、より多くの方へ教職員能力開発（FD・SD）に関する情報を届けるために「ぼっちゃんメーリングリスト」の運用を開始した。教育企画室のホームページ

(<https://web.opar.ehime-u.ac.jp/>) から会員登録することができ、メーリングリスト会員はFD・SDに関するイベント情報等を投稿し、配信することもできる。令和7年3月20日現在、615名の会員登録があり、累計119件メール配信を行った。

なお、刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報については、教育企画室のホームページでも随時発信している。



ぼっちゃんメーリングリスト

IR News Vol. 12 大学教職員のための56冊



愛媛大学FD・SDチャンネル (YouTube)



愛大学習チャンネル (YouTube)

d. 論文・記事の掲載等について

教育企画室のスタッフは、専門分野から大学全体の取組まで、愛媛大学での事例や研究成果を論文や記事にまとめている。今年度は、以下の各種教育誌や新聞等に9本掲載された。また、著書に関しても、共著を含む4冊が新たに出版された。

論文、記事一覧

表題	掲載誌等名	出版社	出版年 /巻/号/頁	著者
座談会パートの報告 ——働きがいのリアル——	『大学教育学会誌』	大学教育学会	2024年6月 /46巻/1号	清水栄子
日本の高等教育の質保証におけるアカデミック・アドバイジング評価の現状	『大学情報・機関調査研究集会 論文集』	日本インスティテューショナル・リサーチ協会	2024年11月 /13号	清水栄子 ほか
アカデミック・アドバイジングを取り入れてみませんか？	『看護教育』	医学書院	2024年6月号	清水栄子
大学カリキュラムの未来	『月刊愛媛ジャーナル』	愛媛ジャーナル	2024年10月 号	上月翔太
スチューデント・サクセスを支えるアカデミック・アドバイジング	『大学時報』	日本私立大学連盟	2024年11月 /419号	清水栄子
愛大学生コンピテンシーの改訂プロセスと論点	『大学教育実践ジャーナル』	愛媛大学教育・学生支援機構	2025年3月、 24号	中井俊樹
未来思考支援科目「未来思考リテラシー」の開発	『大学教育実践ジャーナル』	愛媛大学教育・学生支援機構	2025年3月、 24号	上月翔太
国立大学における大学院共通科目の動向 —目的・科目数・内容に着目して—	『大学教育実践ジャーナル』	愛媛大学教育・学生支援機構	2025年3月、 24号	上月翔太
茶道文化で実現するユニバーサルデザイン： 共に学ぶ授業の工夫	『教育学術新聞』	日本私立大学協会	2025年3月	清水栄子

著書一覧

表題	出版社	出版年	著者
大学における教育倫理の原則と実践	日本高等教育開発協会	2024年8月1日	中井俊樹、 上月翔太ほか
大学FD入門	ナカニシヤ出版	2024年8月1日	中井俊樹、 上月翔太ほか
なぜ少年は聖剣を手にし、死神は歌い踊るのかーポップカルチャーと神話を読み解く17の方法	文学通信	2024年10月1日	上月翔太ほか
大学教育の国際化	玉川大学出版部	2024年12月1日	中井俊樹、 上月翔太ほか

Ⅲ. FD/SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

a. 他拠点等との協働による研修会の実施

今年度は、近畿大学 I R・教育支援センターおよび大学コンソーシアム大阪との共催でSDコーディネーター養成講座とカリキュラム・コーディネーター養成講座（8月8日～9日）を開催した。また、カリキュラム・コーディネーター養成講座は、日本高等教育開発協会（JAED）の後援で実施した。両研修においては、本学と共催機関が連携して講師や運営を担当し、SDおよびカリキュラム開発の専門的な知識を受講者に提供した。

次年度以降も引き続き、他拠点等と連携して研修を実施する予定である。

b. 他ネットワーク等への講師派遣・運営支援

おおいた地域連携プラットフォーム主催「第7回大分合同FD・SDフォーラム」（8月2日）、大学教務実践研究会主催「大学教育の国際化 基礎知識セミナー」（12月13日）、日本高等教育開発協会（JAED）主催「学習支援担当者研修会」（2月6日～7日）、「第5回カリキュラムコーディネーター養成研修会—初級編—」（2月15日～16日）、大学コンソーシアム大阪主催「2024年度管理職者SD研修」（2月27日）、教育ネットワーク中国主催「教育ネットワーク中国第8回研修会」（3月8日）など、他ネットワーク等へ本拠点から講師の派遣を行った。

本拠点代表の中井は、現在、日本高等教育開発協会（JAED）の会長を務めている。また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク（SPOD）の企画・実施統括者を務めるなど、FD・SDともに、本拠点から多数の講師派遣を行うだけでなく、運営支援にも深く携わっている。なお、大学教育イノベーション日本（HEIJ）においては、令和5年度より本学が事務局を担当している。

これらのネットワーク等との連携を活かし、大学教育の開発に積極的に取り組み、支援の対象を全国の高等教育機関へと広げている。

大学教育の国際化 基礎知識セミナー

主催：大学教務実践研究会、東海国立大学機構名古屋大学高等教育研究センター[質保証を担う中核教職員能力開発拠点]

2024年12月13日(金) 13:00-17:15

会場 名古屋大学東山キャンパス文系総合館

講師 岩田 剛 (愛媛大学)、大竹 秀和 (立教大学)、塩川 雅美 (龍谷大学)、
鈴木 悠 (東京音楽大学)、前河 泰正 (大阪国際大学)、
宮林 常崇 (東京都立大学)、村上 健一郎 (横浜国立大学)



このセミナーでは、学生の海外派遣や留学生の受け入れといった大学教育の国際化に関する業務について、どの大学でも活用できる標準的なケースを用いて、必要な知識・理解を基礎から丁寧に解説します。併せて、セミナーでの学びを実際の業務に活かすためのワークや他大学の職員とのつながりを構築できる時間も設定します。

大学の国際化は、国際部門だけではなく、教務やキャリア支援、総務、人事、施設など、様々な部門の業務に影響があります。そのため、これからの大学職員にとって、国際化に関する基礎的な知識・理解は必須のものといえるでしょう。このセミナーは、大学教育の国際化に関する業務で日々苦労している部署の方はもちろんのこと、大学職員としてステップアップしたいすべての方を対象としています。

国際部門の知識や経験は不要ですので、奮ってご参加ください。

第1部 講習会 (13:00~14:30 <12:45 受付開始>)

大学教育の国際化に関する業務のうち留学生の受け入れを中心に、基礎から丁寧に解説します。

第2部 ワークショップ (14:45~16:15 <14:35 受付開始>)

次のテーマの中から関心のあるものを事前に1つ選んでいただきます。どのテーマも業務知識や経験ゼロで参加できます。なお、定員に達したテーマは受付を締め切ります。

- ① 海外派遣プログラム (短期) の企画
- ② 留学生受け入れの環境整備
- ③ 各種証明書 (単位認定など) の解説

第3部 情報交換会 (16:30~17:15 <16:20 受付開始>)

担当者を中心に小グループを複数つくり、お互いの業務上の悩みや経験をシェアします。

お申込み：<https://forms.gle/CcQA2CujZW7JNJex5> からお申込み下さい。

※通しでの参加を推奨しますが、第1～3部のうち希望する講座を選んで参加することもできます。

※いただいた個人情報は、本企画運営の目的にのみ使用いたします。

※お一人ずつの参加申し込みをお願いいたします。

申込期限：12月7日 (土)

参加費：無料 / テキスト (2,640円；近刊) の購入が必要です。購入方法は申込者へおってお知らせします。

定員：40名

お問合せ：nagoya@kyoumujijsenn.com (大学教務実践研究会)

参加により期待できる変化

- 所属大学の学生の学習状況やニーズ、実施されている学習支援の特徴と課題を整理し、適切な提案ができるようになります。
- 所属大学で実施されている学習支援を向上させるための改善案を作成し、実行できるようになります。
- 学習支援担当者のネットワークが広がります。

本研修会の到達目標

- (1)学習支援とその意義を説明できる。
- (2)学習課題の解決に向けた支援の方法について説明できる。
- (3)所属大学の学生の学習課題について解決方法を提案できる。
- (4)学習支援に関わる多様な考え方や実践事例を尊重し、共に学び合う雰囲気貢献する。

参加申し込み

お申込み <https://www.jaedweb.org/dev1>

問合せ
メールアドレス info@jaedweb.org

参加費 1人 20,000円

振込先 三井住友銀行 兵庫支店 普通 7758395
かマサトヒヨウカクミデザインカキウツウ

参加費
内訳

テキスト/ 当日資料印刷・製本費 / 昼食 / 当日研修費用
※清水栄子・中井俊樹編(2022)『大学の学習支援 Q&A』(玉川大学出版部)を参加者に配付いたします。



第1回

学習支援担当者研修会

受講証
発行

～学生の学習課題を改善する方法を考える～

学生の学習に対するニーズや課題は多様化しており、その課題にそった支援の提供が求められています。本研修では貴学の学生の課題に沿った学習支援方法を模索し、その改善を考えます。学生の学習について課題を感じ、その解決に向けた支援を模索している全教職員を対象としています。

■開催日程 2025年 2月 6日木曜日 10:30～17:20 (受付開始10:10)
2025年 2月 7日金曜日 10:10～17:00

■場 所 キャンパスポート大阪
大阪市北区梅田1-2-2-400 大阪駅前第2ビル4階

■対象者 大学教職員 **定員 30名**

事前課題があります。
詳しくは内面をご参照下さい。
研修会全日程を受講の方に受講証を発行します。

【主催】日本高等教育開発協会

【共催】教職員能力開発拠点(愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室)

株式会社学びと成長しくみデザイン研究所

多様な学生を受け入れている大学では、学習者本位の教育の提供とともに、その質の保証が求められています。学生の学びを充実させるためには、正課教育だけでなく、正課外活動も視野に入れたきめ細やかな支援が必要とされています。そのためには、教育を担当する教員とともに職員も参画した学習支援の重要性が高まっています。

本研修会では、学習支援に関する理論と実践を学び、所属大学における学生の学習課題の解決に向けた改善策を作成します。講義だけでなく、参加者同士や講師との議論を通して学ぶことで理解を深めていきます。

学生の課題に沿った支援方法の検討、学習支援に関する課題の解決、学習支援の組織的な運営をお考えのみなさまのお申し込みをお待ちしております。

このような方が対象です

- 学習支援を担当している教職員(クラス担任、ゼミ担当教員を含む)
- 学務系職員
- 学習支援部門の組織的運営に携わる管理職

事前課題

テキスト『大学の学習支援Q&A』を踏まえ、以下の課題についてわかる範囲でワークシートの該当箇所に記入してください。

- 1) 所属大学について(1)学生の特徴(2)提供されている学習支援の①名称、②目的、③対象(学部や学年、全学的か特定の授業の受講生かなど)、④支援の概要、⑤評価方法(支援の効果や成果をどのように測っているか)、⑥担当部署
- 2) 現時点で認識している課題や改善したいと考えている点

講師



清水栄子
日本高等教育開発協会 正会員
愛媛大学 准教授



多田泰紘
日本高等教育開発協会 正会員
京都橘大学 講師



岸岡洋介
京都外国語大学 准教授

プログラム

研修1日目 2月6日木曜日

<オープニング> 10:30

オリエンテーション・参加者自己紹介

2日間の研修に関するオリエンテーションおよび参加者による自己紹介を行います。

11:00

学習支援が求められる背景と意義

大学においてどのような学習支援が必要とされているのか、またなぜ学習支援が求められるのかを理解します。

ランチタイム <12:00-13:00>

13:00

学生の課題に応じた支援

学習支援において学生の課題を把握し、その課題に対応することが重要となります。まず、よくある学生の課題を理解することから始めます。次に、所属大学の学生の課題を把握し、適切に対応する方法を学びます。

<グループワーク> 14:10

所属大学における学習支援の課題の共有とフィードバック

事前課題に基づき、所属大学における学習支援の課題についてグループ内で共有し、解決策を考えます。

学習支援のさまざまな方法

学習支援にはさまざまな方法があり、学生の特性や大学の目標に応じて適切な支援を選択することが重要です。ここでは、代表的な学習支援方法とその特徴について学びながら、所属大学の目標や学生の状況に適した支援方法を検討するヒントを提供します。

<全体> 16:30

学習支援の実践上の課題共有

学習支援を企画・運営するうえでの課題や改善したいこと(事前課題2)の内容)を全体で共有します。また、2日目の学習支援の設計、改善提案に向けて、解決すべきポイントを整理・抽出します。

研修2日目 2月7日金曜日

<前日のふりかえり> 10:10

前日のふりかえり

前日の内容を振り返ります。その後2日目のスケジュールを確認します。

10:20

学生相互による学習支援の事例紹介

学生相互による支援を促し、さらにそれを学生チームとして機能させるためには、後方支援をする教職員の学生との関わり方や環境整備も大きな課題となるでしょう。ここでは、大学のゼミ運営や、課外活動において学生相互による成長支援活動を行っている事例から学びます。

11:10

学習支援組織の運営

学習支援は、大学内の部局や各教職員が協働することでより効果を発揮します。具体的な学習支援の設計、改善を考える前に、学習支援組織の運営について理解を深めます。

ランチタイム <12:10-13:10>

<個人ワーク> 13:10

所属大学における学習支援の設計・改善提案

所属大学における学生の学習課題の解決に向けた改善策や新たな学習支援の設計提案を作成します。

<グループワーク> 14:50

所属大学の学習支援の設計・改善提案の発表・相互フィードバック

作成した改善策や設計提案について参加者と共有し、実現へ向けたフィードバックを行います。

<クロージング> 16:30

よりよい学習支援を展開するために(全体のふりかえり)

2日間の全体のふりかえりと研修のまとめを行います。

信頼関係を育む

2024 (令和6) 年度
管理職者SD研修

2025 (令和7) 年
2.27 木
14:30 ~ 17:30
(情報交換会 17:30 - 18:00)

コミュニケーションを考える

会場

キャンパスポート大阪 (対面開催)
(大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第2ビル 4階)
<https://www.consortium-osaka.gr.jp/access>

大きな社会変化の影響を受けている高等教育の現場において、大学職員として管理職の役割を担うためには、様々な能力が求められます。しかし、具体的にはどのような能力が必要なのでしょう？また、それらの能力育成を担う研修には、どのようなニーズがあるのでしょうか？このような問題意識の基で、企画者は2022-23年度にインタビュー調査を行い、いわゆる「コミュニケーション能力」をはじめ、いくつかの研修ニーズを見出しました。そこで本研修では、対教員、対上司、対部下という3つの対象を想定し、信頼関係の構築を目指したコミュニケーションのあり方について、話題提供者と参加者がともに考えることを目指します。ぜひこの機会に、人的ネットワークの構築や、信頼関係構築につながるコミュニケーションについて考えてみませんか？

到達目標

1

信頼関係を構築するコミュニケーションのあり方を説明できる。

2

明日から使える具体的なコミュニケーション方法をアクションプランとして立案できる。

3

他大学の管理職の職員をコミュニケーション相手の一人として位置づけ、傾聴することができる。

講師

葛西 崇文 氏 (愛媛大学 教育・学生支援機構 教育企画室 特定研究員・特任助教)

早野 秀樹 氏 (学校法人大阪電気通信大学 法人事務局 総務部 部長)

宮原 秀明 氏 (大阪学院大学 大学事務長)

募集要項

対象

管理職 (課長相当以上) にある大学職員
※「課長」ではなくとも部下を持つ職員の方はお気軽にお問い合わせください。

定員

15名 (最少実施人数9名)

プログラム

裏面をご参照ください

受講料

会員大学関係者 無料
非会員大学関係者 2,500円 (要事前納入) ※

申込方法

下記フォームまたは右のQRコードから申込フォームにアクセスの上、お申込みください。
<https://forms.gle/JGn2KgSS5oRFg7yp7>

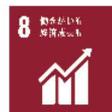


申込締切 2月20日 (木) 午後5時まで

※受講料納入について

- ・対象の方には受講料の振込について別途ご案内を差し上げます。
- ・研修の3日前以降の受講キャンセルに伴う返金はお受けできません。

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪



プログラム (予定)

時間	内容
14:00～14:30	開場・受付
14:30～14:45	開会挨拶・研修趣旨説明 <ul style="list-style-type: none"> ● 開会挨拶 ● 当日の進行説明 ● 2022～2023年度の研究概要と本研修の目的について
14:45～15:30	話題提供 <ul style="list-style-type: none"> ● 対教員・上司・部下とのコミュニケーションにおいて、信頼関係を構築するために留意していることについて、講師の3名が話題提供いたします
15:30～15:40	休憩
15:40～16:40	グループワーク1 <ul style="list-style-type: none"> ● グループに分かれ、以下の3点について共有します 対教員、上司、部下との信頼関係を構築するために、コミュニケーションにおいて... <ol style="list-style-type: none"> ①留意していること ②留意点が効果を発揮していると思うこと ③改善の余地を感じていること グループワーク2 <ul style="list-style-type: none"> ● 共有された内容に基づいて、特に効果的なこと、特に課題と感じていることを整理します
16:40～16:50	個人ワーク <ul style="list-style-type: none"> ● グループワークを踏まえて、研修後に実践したい、コミュニケーションに関する「アクションプラン」を考えます
16:50～17:00	グループワーク3 <ul style="list-style-type: none"> ● アクションプランをグループ内で共有します
17:00～17:20	全体共有・ディスカッション <ul style="list-style-type: none"> ● グループワーク2でまとめたことを全体で共有するとともに、その内容についてディスカッションを行います
17:20～17:25	まとめ <ul style="list-style-type: none"> ● 話題提供者3名による総括 ● 研修後のフォローアップやネットワークについて
17:25～17:30	閉会挨拶
17:30～18:00	情報交換会(希望者のみ) <ul style="list-style-type: none"> ● 自由懇談や名刺交換など

事前課題

あなたが対教員、上司、部下との信頼関係構築のため、コミュニケーションにおいて

- ①留意していること
- ②留意点が効果を発揮していると思うこと
- ③改善の余地を感じていること

以上3点を所定のワークシート (A4版1枚) に記載のうえ、提出してください。

◆提出期限: 2月21日(金)

◆提出先: kenshu★conso-osaka.jp (★を@に変えてください)

※ワークシートは申込者の方へ個別にお送りいたします。/当日は、グループワーク1以降で、この事前課題に基づいてワークを実施します。

問い合わせ先

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 (事務局 研修担当)

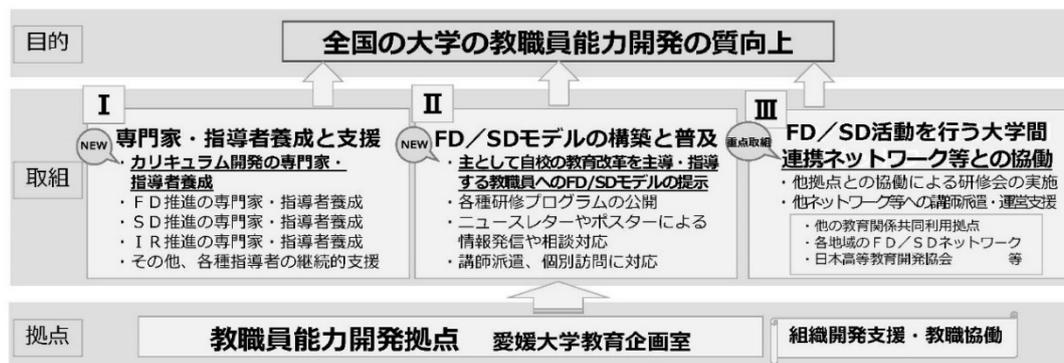
電話: 06-6344-9560 (平日 9:30～17:30)

メール: kenshu★conso-osaka.jp ※★を@に変えてください

4 第3期の事業報告

(1) 第3期5年間の総括（令和2～令和6年度）

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、令和元年8月に教育関係共同利用拠点として3度目の認定を受け、令和2年4月に第3期の事業をスタートさせた。第3期事業では、個々の教職員の能力開発だけでなく、「組織開発支援」を重視した取組を行った。第3期は、研修の実施形態に大きな変化を与えた期間でもあった。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大により、外出自粛や、移動制限など人々の生活に大きな影響を及ぼし、本事業においても対面での研修の開催、講師派遣ができなくなるなど、本事業の計画変更を余儀なくされた。そのようなコロナ禍で同期・非同期型のオンライン研修を取り入れるなど、効果的な方法を模索しながら実施した。この5年間でオンラインの活用が進み、対面・オンラインそれぞれの利点を活かした研修を実施する等、受講者のニーズに合わせて研修形態を選択できるようになった。また、コロナ禍の経験を活かし、全国の高等教育機関が利用できるオンデマンドコンテンツの開発等、新たな取組も行った。以下、第3期の取組状況を総括する。



① FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援

本拠点では、第1～2期からFD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成に重点的に取り組み、第1期からの継続する講座として、ファカルティ・ディベロッパー（FDeR）養成講座、SDコーディネーター（SDC）養成講座、SDCフォローアップセミナー、インスティテューショナル・リサーチャー（IRer）養成講座を開催し、合計179名の参加があった。これに加えて、第3期からは新たにカリキュラム開発の専門家・指導者養成にも取り組んでおり、カリキュラム・コーディネーター（CC）養成講座は、令和3年度、令和5年度、令和6年度の計3回で合計92名の参加があった。また、令和5年度には、大学職員のための生成AIコーディネーター養成講座と大学教育国際化コーディネーター養成講座を開催するなど、時代に即した分野の専門家・指導者養成講座の開発、実施も行い、全国の高等教育機関の組織開発につながる着実な成果を上げている。

また、本拠点独自の認定資格であるSDコーディネーターについては、これまでに43名（うち学外者21名）を認定し、第3期は14名を認定した。設立当初は学内者が大半を占めていたが、第2期の認定期間中（平成27～令和元年度）は、学内者10名、学外者10名、第3期の認定期間中（令和2～令和6年度）は学内者4名、学外者10名となっており、全国へと拡がりを見せている。

【第3期 各種養成講座の参加者数】

年度	F D e r	S D C	I R e r	C C
令和2年度		16名	33名	
令和3年度	33名			37名
令和4年度		16名	30名	
令和5年度	7名		17名	19名
令和6年度		19名		36名
合計	40名	51名	80名	92名

〈その他〉

令和3年度

- ・SDCフォローアップセミナー 8名

令和5年度

- ・大学職員のための生成AIコーディネーター養成講座 27名
- ・大学教育国際化コーディネーター養成講座 20名

【第3期 SDの専門家としての「SDC」認定実績】

年度	認定者
令和2年度	4名（学内2名、学外2名）
令和3年度	3名（学内0名、学外3名）
令和4年度	4名（学内1名、学外3名）
令和5年度	2名（学内1名、学外1名）
令和6年度	1名（学内0名、学外1名）
第3期合計	14名（学内4名、学外10名）

② 研修プログラムの提供

本拠点では、FD/SD/IR/カリキュラム開発の専門家・指導者の養成・支援に関する講座以外にも、教職員個々の能力開発から組織レベルの教育力向上まで、幅広く高等教育機関で活用できる知識やスキルを習得できる研修プログラムを提供している。第3期は5年間で70プログラムを提供し、全国から延べ1202名が参加した。また、事後アンケートの結果、全ての年度において90%以上の高い満足度を得ることができた。

【第3期 研修プログラム提供実績】

年度	提供数	参加者数
令和2年度	12件	272名
令和3年度	13件	203名
令和4年度	12件	130名
令和5年度	18件	268名
令和6年度	15件	329名
合計	70件	1202名

③ 研修講師派遣

多種多様な研修のニーズに対応できるメニューと体制を整え、第3期は5年間で延べ185機関に対し、合計236件の講師派遣を行った。また、単独ではFD/S D研修の実施が難しい小規模校に対する派遣を積極的に行うとともに、四国地区以外の地域ネットワーク（コンソーシアム等）に対する派遣も積極的に行った。なお、第3期から、高等教育機関への組織開発支援に注力するため、高等教育機関で実施した講師派遣のみ実績としている。

【第3期 講師派遣実績】

年度	件数	機関数
令和2年度	43件	33機関
令和3年度	54件	42機関
令和4年度	49件	37機関
令和5年度	36件	28機関
令和6年度	54件	45機関
合計	236件	185機関

【第3期講師派遣 地域別内訳】

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	その他	合計
令和2年度	0	1	5	7	11	8	11	0	0	43件
	0	1	4	6	9	5	8	0	0	33機関
令和3年度	0	1	9	7	15	5	9	8	0	54件
	0	1	7	7	9	5	9	4	0	42機関
令和4年度	0	1	15	5	15	4	6	3	0	49件
	0	1	8	5	12	4	4	3	0	37機関
令和5年度	0	2	11	3	11	4	3	2	0	36件
	0	1	8	3	7	4	3	2	0	28機関
令和6年度	1	1	13	5	13	8	9	4	0	54件
	1	1	11	5	9	7	7	4	0	45機関

④ 情報発信

第3期は各種刊行物の発行を継続しながら、新たにオンデマンドコンテンツの提供や、情報発信ツールの構築に注力して取り組んだ。これらの取組により、デジタルツールを通してより多くの全国の大学教職員に情報を届けることができ、利便性が向上した。

○各種刊行物の発行

本拠点では、教育改革や改善を進めるため、現状を把握・分析し刊行物として情報を公開している。本拠点が発行した主な刊行物を以下、記載する。

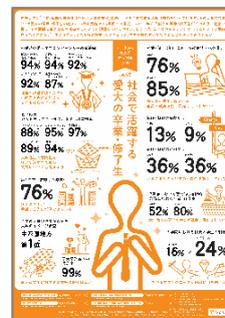
「IR News」

教学IR担当者への支援の一環として、調査結果から想定される課題や学内外のIRに関する取組を掲載し、各種研修やホームページ等で提供している。第3期は毎年1回Vol. 8～Vol. 12を発行した。



「データから考える愛大授業改善」

学生の背景や教育の実態を教職員が正しく把握し、授業やカリキュラムの改善を考えるきっかけとするため、愛媛大学の教育データをポスター形式でまとめ、広く教職員に配付している。第3期は令和3～令和5年度にVol. 06～Vol. 08を発行した。



「大学教職員のためのブックガイド」

本拠点が推薦する図書をテーマ別に厳選しまとめた三つ折りリーフレット「大学教職員のための32冊」(平成27年度発行)の改訂版として、令和3年度に「大学教職員のための48冊」、令和6年度に「大学教職員のための56冊」を発行した。



「大学教育実践ジャーナル」

高等教育の発展に資する研究論文や事例報告を掲載しており、第3期は第19号～第24号を発行した。令和3年度に発行された第20号は臨時増刊号として発行し、コロナ禍における大学全体、各学部・研究科で実施された授業や学生支援での様々な取組を特集した。



○オンデマンドコンテンツの提供

能力開発支援の一環として、他大学がFD/S D研修や教職員の自学自習教材として活用可能なFD・SDに関する動画を開発し、令和2年度から教育企画室ホームページにて多数公開している。令和5年度にはYouTubeチャンネル(愛媛大学FD・SDチャンネル)を開設し、これまでに教育企画室が関連する各種FD・SDに関する動画を75本(令和7年3月20日現在)配信した。

○情報発信ツールの構築

令和3年度にホームページの利便性を高めるためにリニューアルを行い、動画の閲覧やスマートフォンからのアクセスに適した仕様となった。また、教職員能力開発(FD・SD)に関する情報を配信するため、令和5年度にYouTubeチャンネル・Xの開設、令和6年度に

ぼっちゃんメールリストの運用開始といった取組を行い、全国の大学教職員に広く情報を届けられる仕組みを構築した。

⑤ FD／SD活動を行う大学間連携ネットワーク等との協働

第3期は、他拠点や、コンソーシアム等との連携を強化し、大学間連携ネットワーク等への研修講師派遣・運営支援をより積極的に行った。主に芝浦工業大学（理工学教育共同利用拠点）、名古屋大学高等教育研究センター（質保証を担う中核教職員能力開発拠点）、日本高等教育開発協会（J A E D）との協働で各種研修を実施した。その他、全国規模のネットワーク組織等に講師派遣を行うなど、大学教育の開発を進める組織との協働を積極的に行うことで、支援の対象を全国の高等教育機関に広げている。

【組織開発支援】

本拠点事業第3期は、全国の大学のカリキュラム、制度、リーダーシップ等の改善に向けた支援、すなわち「組織開発（OD: Organizational Development）」支援に取り組み、各組織における自律的な教育改善の促進を目指すことを重点取組としている。第3期は、5年間で延べ250機関に対する組織開発支援を行うとの成果指標を掲げ、研修実施や講師派遣、コンサルティング等を通して、計267機関への組織開発支援を実施した（令和7年3月20日現在）。

引き続き、それぞれの機関の実情や要望にあったプログラムによる研修やコンサルティングを実施するとともに、現状に即した新たなプログラムを開発し、全国の高等教育機関への支援を拡げていく。

年度	実績
令和2年度	52機関
令和3年度	66機関
令和4年度	48機関
令和5年度	57機関
令和6年度	44機関
合計	267機関

※組織開発支援を提供した機関数は、カリキュラム、制度、組織体制などの組織的課題の解決に向けた支援を実施した機関の数である。研修による組織開発支援は、実施期間2日以上、組織開発支援を目的とした研修を対象とし、かつ個々の参加者の状況に応じた実施計画の策定まで支援しているものに限る。会議参加や面談などによる組織開発支援は、実施期間2日以上、継続的なものに限る。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程

〔 令和6年4月1日
規則 第46号 〕

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室内規(平成18年5月10日制定)の全部を改正する。

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学教育・学生支援機構規則第10条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室(以下「教育企画室」という。)の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 教育企画室は、愛媛大学教育・学生支援機構長(以下「機構長」という。)の指示のもと、愛媛大学(以下「本学」という。)の教育に関する諸課題について調査、研究等を行うとともに、その成果をもとに教育施策を企画し、本学の教育改革を推進することを目的とする。

(業務)

第3条 教育企画室は、機構長の指示に基づき、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 全学的な教育企画、教育改革等に関すること。
- (2) 全学的な教育課題に係る調査、研究等に関すること。
- (3) 教職員の能力開発の実施に関すること。
- (4) 四国地区大学教職員能力開発ネットワーク事業に関すること。
- (5) 教職員能力開発拠点事業に関すること。
- (6) その他教育開発に係る調査、研究等に関すること。

(組織)

第4条 教育企画室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) 室長
- (2) 副室長
- (3) 室員

2 室長は、機構長が指名する副機構長をもって充てる。

3 副室長は、室員のうちから、機構長が指名する。

4 室員は、教育・学生支援機構及び教育学生支援部に所属する職員のうちから、機構長が指名する。

5 副室長及び室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

(職務)

第5条 室長は、教育企画室の業務を掌理する。

2 副室長は、室長の職務を補佐する。

3 室員は、教育企画室の業務を処理する。

(共同利用運営委員会)

第6条 教育企画室に、第9条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議するため、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会(以下「共同利用運営委員会」という。)を置く。

2 共同利用運営委員会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(プロジェクトフェロー)

第7条 教育企画室に、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー(以下「プロジェクトフェロー」という。)を置くことができる。

2 プロジェクトフェローは、教育企画室が行う教職員能力開発に係る研修の企画、実施等に参画する。

3 プロジェクトフェローの受入れに関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(認定研修講師)

第8条 教育企画室に、愛媛大学認定研修講師（以下「認定研修講師」という。）を置くことができる。

2 認定研修講師は、室長の依頼に基づき、教育企画室主催又は四国地区大学教職員能力開発ネットワーク主催の教職員能力開発研修の講師を行う。

3 認定研修講師は、本学の職員（教育企画室の室長、副室長及び室員を除く。）のうちから、室長が推薦し、機構長が当該職員の所属する部局等の長の同意を得て、委嘱する。

(共同利用)

第9条 教育企画室は、教職員の能力開発のため、本学の教育研究に支障のない範囲で、本学のプログラム、設備、資料等を、他の高等教育機関等の利用に供することができる。

(事務)

第10条 教育企画室に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、教育企画室に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

平成22年3月23日
制 定

(趣旨)

第1条 この内規は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程（以下「教育企画室規程」という。）

第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、教育企画室規程第9条に規定する共同利用の実施に関する重要な事項を審議する。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (3) 教育学生支援部長
- (4) 学外の学識経験者 若干人

2 前項第2号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

3 第1項第4号の委員は、機構長が推薦し、学長が委嘱する。

4 第1項第2号及び第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときはこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

5 第1項第1号から第3号までの委員の合計数は、運営委員会の委員の総数の2分の1以下とする。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、機構長が指名する。

2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ。）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 運営委員会に関する事務は、教育学生支援部において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が別に定める。

附 則

1 この内規は、平成22年3月23日から施行する。

2 この内規施行後、最初に任命される第3条第1項第3号及び第6号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月19日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議内規

平成22年4月21日
制 定

(設置)

第1条 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程第11条の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室に愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用推進会議（以下「共同利用推進会議」という。）を置く。

(目的)

第2条 共同利用推進会議は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室共同利用運営委員会が定める基本方針に基づき、共同利用の事業等を実施するために必要な事項を審議する。

(組織)

第3条 共同利用推進会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教育企画室長
- (2) 教育企画室副室長
- (3) 教育・学生支援機構の専任教員 1人
- (4) 教育学生支援部長
- (5) 教育企画課長
- (6) 人事課長

2 前項第3号の委員は、教育企画室長が推薦し、愛媛大学教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）が指名する。

(議長)

第4条 共同利用推進会議に議長を置き、機構長が指名する。

- 2 議長は、共同利用推進会議を招集し、主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、議長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 共同利用推進会議は、委員の3分の2以上の出席がなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可非同数のときは議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 議長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 共同利用推進会議に関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第8条 この内規に定めるもののほか、共同利用推進会議の運営に関し必要な事項は、共同利用推進会議が別に定める。

附 則

この内規は、平成22年4月21日から施行する。

附 則

この内規は、平成23年5月9日から施行する。

附 則

この内規は、平成24年5月15日から施行する。

附 則

この内規は、令和4年4月19日から施行し、令和4年4月1日から適用する。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェローの受入要項

〔 令和 6 年 4 月 1 日
制 定 〕

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室規程（以下「規程」という。）第7条第3項の規定に基づき、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室プロジェクトフェロー（以下「プロジェクトフェロー」という。）の受入れに関し、必要な事項を定めるものとする。

(資格、業務等)

第2条 プロジェクトフェローは、愛媛大学の教職員以外の者であって、教職員能力開発に係る知識、経験等を有するものとする。

2 プロジェクトフェローは、教育・学生支援機構教育企画室（以下「教育企画室」という。）における教職員能力開発に係る研修の企画、実施、調査研究、教材開発等に参画する。

(推薦)

第3条 教育企画室長は、愛媛大学の教職員以外の者のうちから、教職員能力開発に係る知識、経験等を有するものをプロジェクトフェロー候補者として、教育・学生支援機構長（以下「機構長」という。）に推薦する。

(委嘱)

第4条 機構長は、前条の推薦があったときは、当該者の所属する機関の長の承認を得て、国立大学法人愛媛大学アカデミックアドバイザーに関する規程第2条第3号の規定に基づくプロジェクトフェローとして委嘱するため、国立大学法人愛媛大学アカデミックアドバイザーの受入細則第2条第2項に基づき、学長へ委嘱を依頼する。

(受入期間)

第5条 プロジェクトフェローの受入期間は原則として1年（年度途中で受け入れた場合は、受け入れた日の属する年度末までの期間）とし、更新することができる。

(プロジェクトフェローの取消し)

第6条 機構長は、プロジェクトフェローから辞退の申出があった場合、プロジェクトフェローが本学の業務に支障を来すおそれがあると認めた場合その他必要と認めた場合は、学長へプロジェクトフェローの委嘱の取り消しを申し出ることができる。

(謝金)

第7条 プロジェクトフェローに、国立大学法人愛媛大学諸謝金取扱要項に基づき、謝金を支払うことができる。

(経費の一部負担)

第8条 教育・学生支援機構は、予算の範囲内で、プロジェクトフェローの業務等に係る経費の全部又は一部を負担することができる。

(事務)

第9条 プロジェクトフェローの受入れに関する事務は、教育学生支援部教育企画課において処理する。

(雑則)

第10条 この要項に定めるもののほか、プロジェクトフェローの受入れに関し必要な事項は、機構長が別に定める。

附 則

この要項は、令和6年4月1日から施行する。

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室

共同利用運営委員会委員名簿

氏名	所属・職名	備考
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長、教授	第1号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授	第2号委員
桐野 律子	愛媛大学教育学生支援部長	第3号委員
榊原 暢久	芝浦工業大学教育イノベーション推進センター長 教授	第4号委員
丸山 和昭	名古屋大学大学院教育発達科学研究科 准教授	第4号委員
竹山 優子	筑紫女学園大学教学支援部教務班 班長	第4号委員
小林 功英	日本私立大学協会広報部企画課長	第4号委員

共同利用推進会議委員名簿

氏名	所属・職名	備考
中井 俊樹	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室長、教授	第1号委員
高木 佳代子	教育企画室副室長、愛媛大学教育学生支援部教育センター事務課 課長	第2号委員
清水 栄子	愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室 准教授	第3号委員
桐野 律子	愛媛大学教育学生支援部長	第4号委員
(桐野 律子)	愛媛大学教育学生支援部教育企画課長	第5号委員
久保 秀二	愛媛大学総務部次長	第6号委員



令和7年3月 発行

発行 教職員能力開発拠点
(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番
TEL.089-927-8922
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp
<http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>